

平成 29 年度事業報告書

平成 29 年 4 月 1 日～平成 30 年 3 月 31 日

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業 1）

1. 機関誌の頒布事業

当協会の活動報告とともに、社会の課題を抽出し特集として企画・編集している。平成 29 年度の実績および企画案は以下の通り。

平成 29 年度	特 集
No. 379（4-5 月号）	企業の社会貢献を牽引する社員の力
No. 380（6-7 月号）	ディープエシカルのすすめ
No. 381（8-9 月号）	社会に活かすシニアのちから
No. 382（10-11 月号）	健全な民主主義を支える図書館の役割
No. 383（12-1 月号）	社会を照らす、まちかどのフィランソロピストたち ～まちかどのフィランソロピスト賞 20 周年記念～
No. 384（2-3 月号）	女性の活躍（114 位の意味を考える）

2. インターネットを利用した情報提供事業

当協会の活動をはじめ、企業の社会貢献・CSR 情報の提供、NPO・NGO 団体の活動最新情報を発信。

- (1) メールマガジン（毎月 1 日・15 日配信 配信数約 6,000 件）
- (2) 当協会 WEB サイト情報更新。
- (3) (1) (2) を補完する情報発信源として、SNS (facebook) を利用。協会をより身近に感じてもらえる事の出来るトピックを選び、職員全員で情報をアップ。
<https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp>

II. 社会貢献促進事業（公益目的事業 2）

1. 研修事業

(1) 定例セミナー

8 月以外の毎月、幅広いテーマで開催。4～6 月は、新任の CSR 担当者も多いことから基礎講座を開講。

実施日	内容	参加者数
第 329 回 4 月 11 日	CSR 基礎講座 I 『社員参加による社会貢献活動の推進』 <講師>堀 久美子 氏 (UBS グループ コミュニティアフェアーズ エグゼクティブディレクター)	35 名
第 330 回 4 月 20 日	CSR 基礎講座 II 『企業市民の原点から今後の CSR を考える』 <講師>松岡 紀雄 (まつおか・としお) 氏 (神奈川大学名誉教授)	25 名

第 331 回 5 月 25 日	CSR 基礎講座 III 『良心による企業統治 ～ 渋沢栄一の経営哲学からの示唆』 ＜講師＞田中 一弘 氏 (一橋大学大学院商学研究科 教授)	19 名
第 332 回 6 月 8 日	CSR 基礎講座 IV 『社会貢献活動を立ち上げ、広めてきた経験からみる今後』 ＜講師＞山ノ川 実夏 氏 (三井住友海上火災保険株式会社 総務部 部長 地球環境・社会貢献室長)	35 名
第 333 回 6 月 26 日	CSR 基礎講座 V 『CSR の最新トレンド～SDGs 時代の企業責任』 ＜講師＞関 正雄 氏 (損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室シニアアドバイザー)	49 名
第 334 回 7 月 21 日	『新時代における枠を超えた発想や生き方』 ＜講師＞國田 圭作 氏 (株式会社博報堂 行動デザイン研究所 所長)	32 名
第 335 回 9 月 26 日	『社員参加を促すための知恵と工夫を聞く』 ＜講師＞山尾 ゆり 氏 (フィリップ モリス ジャパン合同会社) 安川 彩 氏 (三菱商事株式会社)	43 名
第 336 回 10 月 24 日	『刑務所出所者等の社会復帰支援と企業への期待』 ＜講師＞大橋 哲 氏 (法務省 大臣官房審議官 (矯正局担当))	16 名
第 337 回 11 月 24 日	『企業による教育支援の今後 ～出前講座を超えて～』 ＜講師＞竹元 賢治 氏 (インテル株式会社 インダストリー事業本部 教育事業開発推進担当部長)	26 名
第 338 回 12 月 19 日	『「少年と自転車」映画鑑賞と対談～里親について考える夕べ～』 ＜高橋理事長との対談者＞坂本 洋子 氏 (東京都小規模住居型児童養育事業「坂本ファミリー」管理者、「里親ひろば ほいっぷ」グループ代表)	66 名
第 339 回 1 月 24 日	『教育格差是正に取り組む企業と NPO の事例から、今後の課題を考える ～共に生きる未来へ向けて～』 ＜講師＞石井 貴基 氏 (株式会社葵 (アオイゼミ) 代表取締役) 森山 誉恵 氏 (認定 NPO 法人 3keys 代表)	20 名
第 340 回 2 月 23 日	『農福連携の最先端を学ぶ～企業・農業者・障がい者／高齢者等のパートナー シップで地域再生を～』 ＜講師＞濱田 健司 氏 (全国農福連携推進協議会 会長)	30 名
第 341 回 3 月 13 日	『ESG 投資の最新動向～SDGs 時代に評価されるサステナブルな企業になるため に～』 ＜講師＞水口 剛 氏 (高崎経済大学 経済学部 教授)	50 名

(2) フィランソロピーセミナー in 関西

平成 29 年度も、関西（大阪）を中心に開催している。

実施日	内容	参加者数
第 25 回 5 月 19 日	『良心による企業統治～渋沢栄一の経営哲学からの示唆～』 ＜講師＞田中 一弘 氏 (一橋大学大学院商学研究科 教授)	15 名
第 26 回 9 月 1 日	『誰も見捨てない社会とは～人権を守るために企業としてできること』 ＜講師＞勝部 麗子 氏 (社会福祉法人豊中市社会福祉協議会 福祉推進室長)	29 名
第 27 回 12 月 7 日	『企業と NGO の協働 - 課題を共視するパートナーシップの在り方』 ＜講師＞鬼丸 昌也 氏 (特定非営利活動法人テラ・ルネッサンス理事・創設者)	20 名
第 28 回 1 月 25 日	『企業による教育支援の今後 ～出前講座を超えて～』 ＜講師＞小林 征人 氏 (大和ハウス工業株式会社) 相良 有希子 氏 (阪急阪急阪神ホールディングス株式会社) 乾 とし子 氏 (パナソニック株式会社)	27 名

(3) 経営者向け CSR エグゼクティブセミナー

平成 29 年度から、企業経営者向けに CSR のセミナーを 4 回シリーズで開講。自然環境の深刻な悪化、経済格差の進行や新たな技術の急速な進展による予期しなかった問題の発生など、企業をとりまく環境が激変する中、今後の企業経営はどうあるべきか、道筋を多角的に考えるセミナー。総合プロデューサーとして株式会社レスポンスアビリティの足立直樹氏が協力。

実施日	内容	参加者数
第 1 回 9 月 5 日	『SDGs 時代のサステイナブルビジネスを考える』 ＜講師＞足立 直樹 氏 (株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)	7 社 11 名
第 2 回 11 月 9 日	『戦略的人材育成で、強くて優しい会社を創る』 ＜講師＞スコット デイヴィス 氏 (立教大学 経営学部 教授)	7 社 11 名
第 3 回 1 月 15 日	『企業の視点とビジネスモデルで地方は創生できる』 ＜講師＞古田 秘馬 氏 (株式会社 umari 代表/プロジェクトデザイナー)	7 社 9 名
第 4 回 3 月 16 日	『ダイバーシティと人権から今後の CSR 経営の本質を考える』 ＜講師＞村木 厚子 氏 (元 厚生労働事務次官)	8 社 10 名

(4) 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」

～NPO リーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～

平成 29 年度は、前年度の第 9 期の助成金で、(平成 29 年 2 月の東京に続いて) 5 月の福岡で開催し、卒業生は 311 名となった。半年後のフォローアップ・セッションは、東京は 9 月、福岡は 12 月に実施した。

アメリカン・エクスプレス財団からは、東京と福岡の 2 回開催分費用として 2018 年助成金を受領した。2018 年 2 月に東京会場を開催。30 名の研修生が参加し、卒業生は 341 名となった。

① American Express Leadership Academy Global Alumni Summit 2017

「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」のスポンサーであるアメリカン・エクスプレス財団より招待を受けて、研修生とパートナー団体を対象にしたグローバル・サミットに理事長の高橋が出席した。

日時：平成 29 年 4 月 3 日 (月) から 4 日 (火)

会場：マンハッタン・コミュニティ・カレッジ (米国ニューヨーク市)

② アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2017 第 9 期 福岡

日時：平成 29 年 5 月 11 日 (木) から 13 日 (土) 2 泊 3 日

会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前 (福岡県福岡市)

総合監修：米倉誠一郎氏 (法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授)

研修参加者：九州地方を中心とした地域の NPO 次世代リーダー 31 名 (公募および推薦)

プログラム：

＜基礎講座 (理念・哲学)＞

・「未来を拓くイノベーション」(米倉誠一郎氏)

・「率先垂範のリーダーシップ」(米倉誠一郎氏)

＜実務講座 (業務遂行能力)＞

・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」

・「モチベーション・マネジメント」

・「ユニバーサルトイレ・チェック (フィールドワーク)」

・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等

＜グループワーク＞

・ビジョンワークによる、社会的課題の再認識、掘り下げ、共有

・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備

・課題プレゼンテーション

- ③ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2017 第9期 東京
『フォローアップ・セッション』
日時：平成29年9月8日（金）12:30～18:30
会場：ワテラスコモンホール（東京都千代田区）
平成29年2月の合宿研修に参加した研修生のうち19名が参加。5分間のプレゼンテーションで、研修後半年間の学びの実践について発表を行った。
- ④ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2017 第9期 福岡
『フォローアップ・セッション』
日時：平成29年12月4日（月）12:30～18:30
会場：福岡市NPO・ボランティア交流センター「あすみん」（福岡県福岡市）
参加者：合宿研修に参加した研修生
- ⑤ エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018 第10期 東京
日時：平成30年2月15日（木）から17日（土）2泊3日
会場：都市センターホテル（東京都千代田区）
総合監修：米倉誠一郎氏（法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授）
研修参加者：全国のNPO次世代リーダー30名（公募および推薦）
プログラム：
＜基礎講座（理念・哲学）＞
・「未来を拓くイノベーション」（米倉誠一郎氏）
・「率先垂範のリーダーシップ」（米倉誠一郎氏）
＜実務講座（業務遂行能力）＞
・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
・「モチベーション・マネジメント」
・「道端留学～ビッグイシューの販売サポート（フィールドワーク）」
・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等
＜グループワーク＞
・「私の履歴書」執筆を含む「自己探求の旅」
・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
・課題プレゼンテーション

2. 顕彰事業

(1) 第20回まちかどのフィランソロピスト賞

今年度は20周年を迎えることを機に、「次世代育成」を推進することを目的に企業賞を設け、青少年部門を強化した。

① 応募状況について

- | | | | | | | |
|--------|-----|-----|------|---|-------|--------|
| ・一般部門 | 32件 | （応募 | ： 2件 | ／ | 事務局推薦 | ： 30件） |
| ・青少年部門 | 32件 | （応募 | ： 6件 | ／ | 事務局推薦 | ： 26件） |

② 受賞者について

●一般部門

【まちかどのフィランソロピスト賞】

川野 幸夫（かわの・ゆきお）様（埼玉県川越市 在住）
高橋 陽介（たかはし・ようすけ）様（東京都世田谷区 在住）

【特別賞】

川淵 三郎（かわぶち・さぶろう）様（千葉市 在住）

●青少年部門

【文部科学大臣賞】 福津（ふくつ）市立福間（ふくま）中学校（福岡県福津市）

【西武信用金庫賞】 武蔵村山市立第八小学校（東京都武蔵村山市）

【奨励賞】 宮城県志津川（しづがわ）高等学校（宮城県南三陸町）

【奨励賞】 北海道帯広養護学校（北海道帯広市）

- 【奨励賞】 榮島 四郎（えいしま・しろう）様（小学4年生 横浜市在住）
 杉澤 真生（すぎさわ・まさき）様（高校3年生 熊本市在住）
 乳井 丈弥（にゅうい・じょうや）様（高校1年生 神奈川県座間市在住）

【贈呈式】

- 日時 2017年12月12日（火）午後1時30分～午後5時（終了後、懇親会）
 - 会場 学士会館 2階210室（東京都千代田区神田錦町3-28）
- ※当日は20周年記念パネルディスカッションを行う。

＜選考委員＞

- 委員長 出口 正之氏（国立民族学博物館 教授）
 委員 落合 寛司氏（西武信用金庫 理事長）
 河崎 保徳氏（ロート製菓株式会社）
 小林 征人氏（大和ハウス工業株式会社）
 二宮 かおる氏（カルビー株式会社）

(2) 第15回企業フィランソロピー大賞

7月1日より告知を開始し、下記のスケジュールにて事業を進めた。

＜応募総数：35件＞

自薦・他薦：29件 事務局推薦：6件

＜スケジュール＞

- | | |
|------------------|------------------|
| 平成29年9月13日（水） | 公募締切 |
| 平成29年10月6日（金） | 第1次選考委員会 |
| 平成29年10月下旬～11月下旬 | 各社ヒアリング（10社） |
| 平成29年12月15日（金） | 第2次選考委員会・贈呈先企業決定 |
| 平成29年12月22日（金） | 贈呈先企業の発表 |
| 平成30年2月27日（火） | 贈呈式（於：日本プレスセンター） |

＜選考委員＞

- 委員長 武田 晴人氏（東京大学 名誉教授）
 委員 岩田 喜美枝氏（株式会社資生堂 顧問、公益財団法人21世紀職業財団 会長）
 佐藤 雄二郎氏（株式会社共同通信社 代表取締役社長）
 渋澤 健氏（コモンズ投信株式会社 取締役会長）

■企業フィランソロピー大賞

アサヒグループホールディングス株式会社（東京都墨田区）

■企業フィランソロピー賞

- 【はたらく幸せ賞】 合同会社西友（東京都北区）
 【とびたて若者賞】 セリエコーポレーション（神奈川県横須賀市）
 【地域の未来創生賞】 全国信用協同組合連合会（東京都中央区）
 【地球を守る緑のカーテン賞】 日立化成株式会社（東京都千代田区）

3. フィランソロピー・バンク事業（個人寄付推進事業）

(1) NPO向け

社名	内容
アメリカン・エキスプレス	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付予定。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野のNPO 32団体に寄付金を配布。

株式会社ジェーシービー	東日本大震災復興支援の取組みとして実施。平成 29 年度も実施し、当協会を通じて寄付先 19 団体が決定。11 月上旬に寄付を実施、平成 30 年度 10 月、または平成 31 年度 3 月までに活用終了予定。
FIL Foundation	NPO の基盤整備を目的として 2 団体に寄付金を配布、2 団体を選定中。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算し、全国 10 ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付する。平成 29 年 4 月に平成 28 年度分 10 団体の寄付先が決定。平成 29 年 6 月上旬に寄付を実施、各団体からの活用報告書も受領済み。 平成 29 年度分についても、3 月中に選定し、平成 30 年 4 月に贈呈式を実施。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 20 団体、および社員がボランティアをしている 12 団体に寄付金を配布。
株式会社みずほフィナンシャルグループ	社員による寄付プログラムで、様々な分野で社会課題の解決に取り組む NPO 5 団体に寄付金を配布。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。 社会貢献活動基金を通じて、障がい者・高齢者支援および LGBT 支援を行う 8 団体に寄付。
株式会社ゆうちょ銀行（新規）	環境分野で住民と共に課題解決に向けた活動をする 13 団体に寄付金を配布。
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患者児支援団体、認知症啓発団体に平成 30 年 3 月ごろの寄付予定。寄付先は昨年度の寄付先を継続。
東洋ゴム工業株式会社	環境基金の内、500 万円分の寄付を今年度より担当。環境問題に携わる国内 NPO 5 団体に寄付決定。

(2) 個人向け

① 東京海上日動あんしん生命 奨学金制度

➤ 応募資格等

- ◆ 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、高等学校等から大学等への進学希望がある方
- ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入□額が、指定の条件を超えない方

➤ 募集期間：平成29年6月1日（金）～平成29年10月31日（火）

➤ 募集人数：50名

➤ 給付額：年間 30 万円

➤ 申請数：73 名（昨年度：91 名）

※ 審査の上、申請内 50 名に内定通知送付済み

② 東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度

➤ 応募資格等

- ◆ 疾病により保護者を失い、経済的理由により支援を必要とする未就学の遺児かつ平成24年4月2日～平成27年4月1日生まれのお子さまを養育する方
- ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方

➤ 募集期間：平成29年6月1日（金）～平成29年10月31日（火）

➤ 募集人数：100名

➤ 支援内容：株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を、年少～年長期間に1年間～最大3年間、無償で提供

➤ 申請数：3名（昨年度：1名）

※ 3名に決定通知送付済み

4. フィランソロピー社会基盤整備事業

(1) 個別企業社会貢献推進事業

A. 従業員ボランティア支援事業

① 「ボランティアウェブ」利用企業

社名	内容
株式会社NTT ドコモ	平成 28 年 4 月より通年での契約で「ボランティアウェブ」の利用を開始。現在 5 地域で利用中。
日本ロレアル株式会社	昨年に続き、平成 29 年 6 月の 1 ヶ月のみの期間限定利用。全世界でのボランティア強化月間のプログラムの受入先調整および申込受付業務を受託。今年は、40 種、137 回分、682 名分のプログラムを「ボランティアウェブ」を通じて募集し、474 名が参加。
株式会社ジェーシービー	平成 23 年から実施している「JCB 社会貢献プログラム」のボランティア受付管理を「ボランティアウェブ」を通じて引き続き利用中。
サントリーホールディングス	平成 29 年 3 月より、社内の「働き方改革」の一環で、「ボランティアウェブ」を利用中。
リシュモン ジャパン株式会社	平成 29 年 7 月 15 日～8 月 15 日、期間限定で利用。同社で初めてのボランティア月間を設定した。8 名参加。
阪急阪神ホールディングス株式会社	平成 29 年 4 月 15 日～6 月 15 日、期間限定で利用。22 名が参加。

ボランティアウェブの利用促進を目的として、通年利用企業 3 社（NTT ドコモ、サントリー、ジェーシービー）の従業員を対象とした「3 社合同ボランティアプログラム」を実施した。

開催日時： 2017 年 12 月 16 日（土） 10:00～15:00

活動プログラム：「D029-エコ農園で畑仕事」

受入団体： NPO 法人日の出太陽の家ボランティアセンター

活動場所： ①（任意団体）東京地球農園（テラ・ファーム）（東京都あきる野市）
② 社会福祉法人太陽福祉協会（東京都西多摩郡日の出町）

参加数： ボランティアウェブ利用企業の従業員 22 名、担当者 4 名、合計 26 名。

② 個別コーディネート企業

社名	内容
アクセンチュア株式会社	部門毎は不定期に、新入社員研修は毎月、年 26～30 回程度のプログラムを企画運営。平成 29 年も実施中。
MSD 株式会社	平成 29 年度は、保健医療に関係した新規ボランティアプログラムとして、「間伐材を活用した人体パズル」の製作を東京と埼玉で 2 回開催。合計で 31 名が参加。
株式会社オリエントコーポレーション	4 月に「プレミアム・フライデー」推進のためのボランティアプログラムの実施を支援（福祉作業所の菓子販売）。7 月には、埼玉県の実業所にて国際協力ボランティアプログラムを開催。14 名が参加。
株式会社かんぽ生命保険	年に 2 回、会議室ボランティアを実施予定。8 月 23 日に 1 回目を実施し（28 名参加）、平成 30 年 1 月 17 日に 2 回目を実施予定。

新日鉄住金エンジニアリング株式会社	平成 26 年より、2 か月に 1 回の頻度でボランティアプログラムを実施中。今年度は、初めての支店開催として、北九州支社のプログラムを現地 NPO と連携して開催。
積水化学工業株式会社	東京本社と呼びかけで、全国にある工場や子会社等単位でのボランティアプログラムを実施中。
大日本印刷株式会社	従業員の被災地ボランティアプログラムの企画および実施を支援。今年度は、7 月に石巻（雄勝）32 名参加、10 月に熊本県南阿蘇村立野地区 23 名参加で活動を実施。
フィリップモリスジャパン株式会社	従業員ボランティアプログラムの申込受付を「ボランティアウェブ」を通じて支援。
プルデンシャル ジブラルタファイナンシャル生命保険株式会社	10 月 21 日（土）、地域農園支援ボランティアを実施。13 名が参加。
リシュモン ジャパン株式会社	海岸清掃ボランティアプログラムを 7 月 29 日（土）に実施。社長も含め、58 名が参加。
フィリップス・ジャパン株式会社	1 月に日本支社のマネジメントチームの研修の一部として、ボランティアプログラムを実施。

B. 助成支援

プログラム名・社名	内容
「田辺三菱手のひらパートナープログラム」 田辺三菱製薬株式会社	難病患者団体、支援団体が実施する活動への助成金プログラム。 ・第 4 期（平成 28 年度助成事業実施） 報告会を 10 月 17 日大阪で、10 月 25 日東京で実施。 ・第 5 期（平成 29 年度助成事業実施中） 10 月 30 日期限として中間報告を提出。 ・第 6 期（平成 30 年度助成事業）は、330 の特定疾患を対象に公募。通常助成（100 万円）12 団体、少額助成（30 万円）9 団体に総額 1,000 万円を助成。
「JT NPO 助成事業」 日本たばこ産業株式会社	地域コミュニティ再生と活性化に取り組む NPO 助成事業の第一次書類審査を支援。

(2) 社会貢献活動支援

プログラム名・社名	内容
「国産小麦ゆめちからの栽培研究プログラム」 敷島製パン株式会社	中高生向け社会貢献プログラムの一環で食料自給率を考えるワークショップを企画・ファシリテート。6 月 18 日（日）、大阪豊中工場にて実施。
「森と紙のなかよし学校」 日本製紙株式会社	日本製紙が所有する菅沼社有林で小学生親子を対象に行う環境教育プログラム。毎年 6 月に予定されていた回は平成 29 年度は中止となった。 9 月の回は、9/9(土)10(日)群馬県丸沼高原にて実施。 25 家族 58 名参加。
SMBC コンシューマーフィナンス株式会社	7 月 7 日、全国から担当者が集まる「CSR 推進リーダー会議」において、全体の企画、講演、グループディスカッションのファシリテーションを実施。
「ボランティア演芸会」 王子ネピア株式会社	業務用大人オムツ等の売上一部の支援により、全国の介護施設で、全日本おむつ団と称する東西 10 名の落語家による演芸会を開催。80 回開催。

<p>「森里海つなぐプロジェクト」 東京ガス株式会社</p>	<p>森、里山、海、をつなぐ環境社会貢献活動の全体の支援。有識者を含む運営委員会で進捗確認・意思決定をしながら遂行。</p> <p>6月11日：海の活動として神奈川県海の公園にて「アマモ再生イベント」実施。(117名参加)</p> <p>10月28日：里の活動として清瀬松山緑地保全地域にて「秋の武蔵野 雑木林の保全活動」実施。(32名参加)</p> <p>10月31日：森の活動として「情報技術による新林業“スマート林業”」セミナー実施。(42名参加)</p> <p>11月5日：海の活動「アマモ再生イベント」第二弾として神奈川県金沢シーサイドラインにて実施。(59名参加)</p> <p>11月9日：森の活動として青梅市にて「情報技術による新林業“スマート林業”」実証見学会実施。(約70名参加)</p> <p>3月5日：埼玉県と「森林(もり)づくり協定」を締結。</p> <p>3月23日：「“スマート林業”報告会」実施。(20名参加)</p> <p>3月末：5団体に対して寄付実施。</p>
<p>「新入社員研修」 東京海上日動火災保険株式会社</p>	<p>岩手県陸前高田市と宮城県石巻市にて平成29年度新入社員200名(グローバルコース採用)の復興支援に絡めた研修プログラムを調整し、5月8日～12日、5月15日～19日2週間に分け実行。</p> <p>被災地の現状を知りながら、農業、漁業等のボランティアを実施。</p> <p>来年度平成30年度新入社員212名(グローバルコース採用)プラス370名(エリアコース採用)の新入社員研修について全国11地域での研修プログラムを作成。平成30年4月16日～20日に実施。</p>
<p>「SAVE SOAP プロジェクト」 アンファー株式会社</p>	<p>創立30周年記念事業として、新たに開発した蚊よけ成分を含んだ石鹸を日本国内での売り上げに応じてカンボジアで母子衛生教育とともに配布する。カンボジアでの教育プログラムと配布に関しては「認定特定非営利活動法人 シェア=国際保健協力市民の会」と協働。</p> <p>事前視察として高橋理事長が8月26日～30日にカンボジアに渡航。事業は10月11日に開始。</p> <p>石鹸配布の補助として、洗うと絵が浮き上がる絵本をアンファー者が作成。今後衛生教育の補助教材として活用する。平成30年4月からカンボジアにて配布スタート。</p>

(3) 被災地復興支援事業

A. 復興応援 キリン絆プロジェクト

① 福島農業支援事業

岩手・宮城より厳しい状況に置かれている福島県に対して行う第2ステージの追加支援。支援においては、「地域ブランドの育成支援」、「6次産業化・販路拡大支援」、「担い手・リーダーの育成支援」というテーマに加えて、特に地域連携を重視。

平成29年4月以降、以下の3プロジェクトの成果報告会を実施。

助成先団体名・プロジェクト名	事業内容	助成金額	報告会
JA そうま トルコギキョウ生産部会 「咲かそうそうま トルコギキョウ魅力アッププロジェクト」	トルコギキョウを中心とした福島の花の産地育成・ブランド育成	8百万円	4月27日

そうま 天のつぶブランド協議会 「天のつぶブランド育成プロジェクト」	福島県発祥のブランド米 で「天のつぶ」のJA そう ま地域でのブランド育 成・加工品	8 百万円	5 月 9 日
がんばっぺ！あんぼ柿協議会 「伝統産業 伊達のあんぼ柿の復活と 継承～新たな挑戦～」	90 年以上の歴史を持つ、 伊達の あんぼ柿のブランド再生 と育成	20 百万円	5 月 31 日
F' S キッチン (元 いわき 6 次化協議会)	(元) いわき “食 Labo” プロ ジェクト	30 百万円	合同報告 会を平成 30 年 1 月 30 日実施

② 「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」(フォロー)

平成 25 年度から 3 年間実施してきた「東北復興・農業トレーニングセンタープロジェクト」の受講生を対象に、平成 28 年度からは、これまでの学びをベースに今後は各自が取り組むプロジェクトの具体化に取り組んでいる。平成 29 年度は、地域創生につながるような取り組みにすることを目指して、重点プロジェクトの支援や先進地視察による学びを深めている。平成 30 年 3 月 10 日に「地域創生 トレーニングセンタープロジェクト」と合同で「最終プレゼンテーション」を実施した(参加者約 220 名)。

③ 農業復興支援第 2 ステージ

「農業復興支援 第 2 ステージ」は、被災地の基幹産業の一つである農業において、「地域ブランドの育成支援」、「6 次産業化・販路拡大支援」、「担い手・リーダーの育成支援」をテーマと掲げ、平成 25 年度～26 年度に合計 39 件の助成に取り組み、それ以降、随時フォローアップを継続してきている。

④ 「KIZUNA Story Book」改訂版

平成 28 年 3 月に、震災から 5 年を迎えて、「復興応援 キリン絆プロジェクト」の農業支援をまとめた「KIZUNA Story Book」を発行。その後追加して助成された福島農業支援のプロジェクトも追記し、改訂版を 5 月 20 日発行。

B. サントリー・チャレンジド・アスリート

東日本大震災復興支援として以下の 3 事業を遂行している。

① 第 4 期「チャレンジド・アスリート奨励金」

7 月より公募開始。12 月 8 日(金)に審査会を実施。個人 49 名、団体 23 団体に総額約 3,300 万円給付決定。平成 30 年 1 月 24 日(水)各県にて記者発表を実施。

申請状況

	個人	団体
岩手	19	10
宮城	30	19
福島	20	7
計	69	33

給付決定数

	個人	団体
岩手	11	7
宮城	21	9
福島	17	7
計	17	23

<審査員(予定)> 4名

田口 亜希氏 (パラリンピアン: 射撃、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事)
福留 史朗氏 (パラリンピアン: 陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事)
増子 恵美氏 (パラリンピアン: 車椅子バスケットボール、
一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事)
高橋 陽子 (公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長)

② 「チャレンジド・スポーツアカデミー」

・アスリート・ビジット

チャレンジド・スポーツに対する子どもたちの理解を深めるため、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、講演や競技体験会などを実施。

*競技はすべて車椅子バスケットボール

開催日	実施会場	生徒数
6月5日	福島県川内村立川内小学校	45
7月5日	宮城県多賀城市立東豊中学校	85
10月13日	岩手県陸前高田市立高田東中学校	60
11月24日	宮城県登米市米山東小学校	79
12月13日	福島県南相馬市小高区4小	22
3月5日	岩手県洋野町立種市小学校	66
3月6日	宮城県七ヶ浜町立松ヶ浜小学校	56

・チャレンジド・スポーツ体験教室

学校ではなく公募によりチャレンジド・スポーツの体験会を実施。本年は福島県にて開催予定。

開催日	実施会場	参加数	実施競技
9月18日	福島県あづま総合運動場	140	車椅子バスケットボール、 陸上、ボッチャ

③ 「チャレンジド・スポーツ育成サポート」

チャレンジド・スポーツ育成のため、基盤強化・環境整備などを支援。本年より各県にて車椅子導入教室を実施し、障害者スポーツのすその拡大に向けた講座を実施する。

車椅子導入教室

開催日	実施会場	参加者数	講師
4月	盛岡市立乙部体育館	11名	橋本大佑氏 (ドイツ障害者スポーツ連盟公 認リハビリテーションスポーツ 指導者)
23, 24日	ふれあいランド岩手	23名	
8月27日	宮城県多賀城市総合体育館	23名	
11月19日	福島県勤労障がい者体育館	27名	

C. チャリティー・リレーマラソン東京2017

6回目となる平成29年度は、東北から4校、熊本から3校、東京から7校が参加。マラソンイベントの前には東北・熊本・東京参加校生徒による合同募金を実施し、企業募金、クラウドファンディング等の合計は3,432,178円となった。東北・熊本各校に49万円ずつ配布。夏休み中に東北被災地(岩手県陸前高田市・大船渡市・釜石市)および熊本被災地ツアーを実施。11月25日に東北・熊本各校の使途の発表を行う報告会を開催した。

特別協賛: 新日本有限責任監査法人

協賛: アサヒグループホールディングス株式会社、MSD株式会社、
クラシエホールディングス株式会社、株式会社ジェーシービー、
トヨタ自動車株式会社、華為技術日本株式会社、
三菱地所株式会社

特別協力: パナソニック株式会社

(Tシャツ提供: 東洋アルミニウム株式会社)

参加校：

東北（4校）	熊本（3校）
<ul style="list-style-type: none"> ・岩手県大船渡市立日頃市中学校 ・宮城県大崎市立古川中学校 ・東北学院中学校 ・福島県いわき市立平第三中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・高森町立高森中学校 ・高森町立高森東中学校 ・御船町立御船中学校

東京（7校）	
<ul style="list-style-type: none"> ・中央区立銀座中学校 ・墨田区立両国中学校 ・江東区立有明中学校 ・東京学芸大学附属国際中等教育学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・足立区立栗島中学校 ・江東区立深川第二中学校 ・八王子市立四谷中学校（募金のみ）

<イベント実施予定>

日程	イベント内容	場所
5月27日(土)	東北熟議 熊本熟議 東京熟議	東北学院中学校・高等学校 高森町立高森中学校 東京学芸大学附属国際中等教育学校
6月	映像制作	東北・熊本参加校
6月～7月	東京参加校による募 金活動	都内
7月15日(土)	合同募金活動 歓迎会	都内
7月16日(日)	リレーマラソン 募金贈呈式	都内 新日本有限責任監査法人会議室
8月16日(水)～ 17日(木)	東北スタディツアー 熊本スタディツアー	岩手県陸前高田市・大船渡市・釜石市 熊本県御船町・高森町・南阿蘇村
11月25日(土)	寄付金使途報告会	東北学院大学土樋キャンパス

Ⅲ. 共生社会創造事業（公益目的事業3）

1. 共生社会づくり推進事業

(1) 寄付醸成事業

A. 誕生日寄付運動事業

誕生日に寄付をするという事をコンセプトに、寄付文化の啓発と行動を推し進めるための事業を、次年度新しく始めるための準備として、各界の有識者に意見を伺う委員会を開催。

B. 寄付川柳

前回の寄付川柳は公益法人協会との共催で実施し、延べ2,306名、5,420作品の応募であった。今回は当協会単独事業として実施。より「寄付」文化醸成に繋がる事業とするため、作品の応募に1,000円の参加費を徴収する（但し18歳以下の方は無料）。

参加費の使途は、平成30年度チャリティー・リレーマラソンの熊本と東北の中学生がマラソン参加のために上京する費用、ならびに東京の中学生が被災地を訪ねるスタディツアーの費用にあてる。

実施期間：2017年11月15日(水)～2018年1月29日(月)

応募詳細：総数366句（211名より）

WEBでの応募 79件・・・39件が2句

FAX・郵便での応募 133件・・・115件が2句

最年少6歳から最高齢90歳。小学生5名、中学生60名、高校生107名

参加費合計：34件、34,000円

A. 選考 ① 第一次選考として職員5名により約100に絞り込み。

② 最終選考会を2月28日(水)14:00～に実施。

選考委員：有識者として川柳家「水野タケシ」氏、高橋理事長

B. 選考結果

最優秀賞	異国の地寄付の服着て子ら駆ける	光ターン	74	女性	専業主婦
優秀賞	ばあちゃんは 素通りできぬ 人でした	入り江わに	54	女性	専業主婦
優秀賞	小銭たち レジのとなりで 人助け	ほな	7	女性	小学生
佳作	ヒフミンに あやかりキフミン 国民的に	ときめきき	61	男性	その他
佳作	兄を見てお金を入れた子の笑顔	永野 暖佳	16	女性	高校生
佳作	あの世には持って行けぬと寄付をする	松本 みよ子	72	女性	主婦
佳作	かけ声で止まってくれるあたたかさ	穴見 菜音	13	女性	中学生
佳作	既読スルー できず立ち寄る 募金箱	ハロリアル	18	男性	高校生
佳作	1円の 募金で世界は 救われる	佐藤 友月	15	女性	中学生
佳作	自己満足 かもしれぬけど いいですか	石倉 久子	41	女性	その他

(2) フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障害者の経済的自立のための名刺制作事業。

今年度は5作品を追加し、作品数は112となった。11月には、新規顧客開拓のツールとしてリーフレットを作成した。

1件：100枚

	H24年度	H25年度	H26年度	H27年度	H28年度	H29年度
制作件数	343	380	270	333	356	348

(3) 声の花束

ドコモサポートの従業員ボランティアによる音訳活動を支援。

今年度は、下記の新規音訳作品を「声の花束」専用サイトに掲載した。

作品名	著作権者	音訳者数
家族力大賞 2009	東京都社会福祉協議会	14名
きずなづくり大賞 2015	東京都社会福祉協議会	13名

2. 次世代育成事業

(1) 寄付推進事業（「寄付育」）

地域課題を題材にした課題解決学習を通して、子どもたちの「生きる力」を育てる教育機会を創出、普及する事業で、平成29年度も、公益財団法人JKAからの助成を得て実施。

【平成29年度 公益財団法人JKA「児童、高齢者、障害者が相補的に関わることのできる地域共生型社会づくりを促進する活動」助成事業】

①推進委員会

<委員>

唐木 清志 氏（筑波大学 人間系 准教授）

藤木 正史 氏（東京学芸大学附属国際中等教育学校）

横田 宗 氏（NPO 法人アクション 代表）

<開催日>

平成29年 7月31日 第一回推進委員会

9月23日 第二回推進委員会

②地域共生プログラム

7月11日～ 地域共生プログラム開始

- ・墨田区立両国中学校
- ・杉並区立杉並和泉学園
- ・八王子市立四谷中学校
- ・福津市立福間中学校
- ・高森町立高森中学校

③セミナーの開催

実施日	内容	参加者数
2017年 11月24日 (東京)	『企業による教育支援の今後 ～出前講座を超えて～』 <講師>竹元 賢治 氏 (インテル株式会社 インダストリー事業本部 教育事業開発推進担当部長)	26名
2018年 1月24日 (東京)	『教育格差是正に取り組む企業とNPOの事例から、今後の課題を考える ～共に生きる未来へ向けて～』 <講師>石井 貴基 氏 (株式会社葵 (アオイゼミ) 代表取締役) 森山 誉恵 氏 (認定NPO 法人 3keys 代表) ※ 第339回定例セミナーとのコラボレーションで実施。	20名
2018年 1月25日 (大阪)	『企業による教育支援の今後 ～出前講座を超えて～』 <講師>小林 征人 氏 (大和ハウス工業株式会社) 相良 有希子 氏 (阪急阪急阪神ホールディングス株式会社) 乾 とし子 氏 (パナソニック株式会社) ※ フィランソロピーセミナー in 関西とのコラボレーションで実施	27名
2018年 2月10日 (福岡)	『企業による教育支援の今後 ～学校・企業連携でより“深い”学びを～』 <講師>唐木 清志 氏 (筑波大学 人間系教授) 白木 照久 氏 (福岡県福津市立福間中学校 校長) 藤原 棋聖 氏 (熊本県高森町立高森中学校 教諭) 相良 有希子 氏 (阪急阪急阪神ホールディングス株式会社) 小湊 真美 氏 (西日本シティ銀行) 丹羽 真奈美 氏 (READYFOR 株式会社)	32名
2018年 3月25日 (東京)	『シティズンシップ教育の実践を深める ～学校・企業連携の可能性～』 <講師>唐木 清志 氏 (筑波大学 人間系教授) 藤木 正史 氏 (東京学芸大学附属国際中等教育学校教諭) 目黒 俊史 氏 (杉並区立杉並和泉学園 教諭) 亀岡 点 氏 (いわき市立平第三中学校 教諭) 高田 彩香 氏 (株式会社りそなホールディングス) 竹元 賢治 氏 (インテル株式会社)	35名

④講演録・事例集の作成

各導入セミナーおよび報告会の事例発表の内容を、講演録&事例集(報告書)として1000部作成。教育関係機関、セミナー出席者へ送付した。

(2)「子どもの貧困課題」に関するファシリテーター育成研修プログラム(独立行政法人福祉医療機構助成事業)

昨年度の「子どもの支援に携わるボランティア育成等事業」に引き続き、本年度も平成29年度「子どもの貧困課題に関するファシリテーター育成研修事業」を実施。

今年度は、「実際に支援の現場を訪問する」や「実際の子どもの抱える課題を知る」といった、昨年度の研修でニーズの多かった点を踏まえた全5回の研修プログラムを12月より開催。

<研修テーマ>

「子どもの貧困」支援の現場に立つ ～子どもたちとの触れ合いを通して真の伴走者になるために～

<研修スケジュール>

第1回	研修 1 「自分の力をどのように支援の現場に活かすか」	2017年12月11日(月) 18:30~21:00
第2回	現場体験・子ども食堂編 「見る・触れあう・学ぶ・考える」	「特定非営利活動法人ピアサポートネットしぶや」が運営する渋谷区内の子ども食堂の現場(候補場所5箇所、候補日時全10日より、一つ以上に参加)
第3回	研修 2 「支援の現場に求められるスキルとは」	2018年1月31日(水) 18:30~21:00
第4回	現場体験・発展編 「子ども食堂支援者との意見交換」	「特定非営利活動法人ピアサポートネットしぶや」が運営する子ども食堂「グループ青空」など、スタッフとの意見交換を行なう。
第5回	研修・まとめ 「子ども支援に必要なニーズと、企業人として出来ること」	2018年2月26日(月) 18:30~21:00

◆ 検討委員

相川 良子 氏 (NPO 法人ピアサポートネットしぶや 理事長)
 田中 康之 氏 (株式会社リンクアンドモチベーション フェロー)
 前野 隆司 氏 (慶應義塾大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)
 松田 雄年 氏 (社会福祉法人東京家庭学校 校長)
 横田 宗 氏 (NPO 法人アクション 代表)
 研修参加者：28名

<「子どもの貧困」対策研修報告シンポジウム> 子どもたちの伴走者になるために
 平成30年3月14日(水) 18:30 ~ 20:30 開催 参加者77名

① パネルトーク「真の伴走者とは」

研修参加者代表より

- ・柿本 克彦 氏 (三井住友海上火災保険株式会社)
- ・野中 さやか 氏 (富士ゼロックス株式会社 CSR 部 社会貢献グループ)

検討会委員より

- ・相川 良子 氏 (特定非営利活動法人ピアサポートネットしぶや 理事長)
- ・田中 康之 氏 (株式会社リンクアンドモチベーション フェロー)
- ・前野 隆司 氏 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)
- ・松田 雄年 氏 (社会福祉法人東京家庭学校 校長)

② 特別講演「子どもたちを孤立させないために、

コミュニティ・ソーシャルワーカーとして地域をつなぐ」

登壇者：江部 直美 氏 社会福祉法人山形市社会福祉協議会 地域福祉部門

福祉のまちづくり第二係長 福祉まるごと相談員 (CSW) 主幹

(3) インターンシップ受入れ

これからの社会貢献活動を担う次世代の育成を目的として、平成29年度も、積極的にインターンシップ受け入れに取り組んだ。

今年度、夏季インターンシップとして

8月8日~22日 : 武蔵野大学2年生、専修大学3年生 2名

8月24日~9月6日 : 専修大学3年生 1名

冬季インターンシップとして

2月5日~3月1日 : 文京学院大学2年生 2名

2月19日~3月2日 : 多摩大学2年生 1名

3月5日~3月12日 : 武蔵野大学2年生 1名

IV. 会員の推移

	H24 年度	H25 年度	H26 年度	H27 年度	H28 年度	H29 年度
正会員	37	34	34	33	29	27
賛助会員(法人)	74	80	79	81	88	93
法人 計	111	114	113	114	117	120
賛助会員(個人)	89	88	89	83	88	91

《正会員》

平成 28 年度末の 29 社から、以下の通り 2 社減少し、27 社となった。

退会等 2 社

- ・新日本有限責任監査法人
- ・株式会社リンクグローバルソリューション（正会員より賛助会員へ種別変更）

《賛助会員》

平成 28 年度末の 88 社から、以下の通り 10 社増加、5 社減少し 93 社となった。

入会等 10 社

- ・さわやか信用金庫
- ・株式会社ティップネス
- ・東京ガス株式会社
- ・マルホ株式会社
- ・東洋ゴム工業株式会社
- ・アンファー株式会社
- ・株式会社フォーバル
- ・フィリップス・ジャパン株式会社
- ・株式会社ゆうちょ銀行
- ・株式会社リンクグローバルソリューション（正会員より賛助会員へ種別変更）

退会 5 社

- ・西日本高速道路株式会社
- ・株式会社リジョブ
- ・U B S グループ
- ・ニフティ株式会社
- ・株式会社リコー

以上

平成29年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

平成30年5月
公益社団法人日本フィランソロピー協会

平成 30 年(2018 年)度事業報告書

平成 30 年(2018 年)4 月 1 日～平成 31 年(2019 年)3 月 31 日

I. 社会貢献啓発事業（公益目的事業 1）

1. 機関誌の頒布事業

当協会の活動報告とともに、社会の課題を抽出し特集として企画・編集している。平成 30 年度の実績は以下の通り。

平成 30 年度	特 集
No. 385 (4-5 月号)	次代の雇用を考える～「就労弱者」が拓く可能性～
No. 386 (6-7 月号)	他者への想いが自分を支える
No. 387 (8-9 月号)	伝統を守る革新
No. 388 (10-11 月号)	家族はみんな“わけあり”家族
No. 389 (12-1 月号)	いま改めてスポーツマンシップを考える
No. 390 (2-3 月号)	震災復興から地域再生への挑戦を追う

2. インターネットを利用した情報提供事業

当協会の活動をはじめ、企業の社会貢献・CSR 情報の提供、NPO・NGO 団体の活動最新情報を発信。

- 新規
- (1) メールマガジン（毎月 1 日・15 日配信 配信数約 6,000 件）
 - (2) 当協会 WEB サイト情報更新
 - (3) 理事長ブログ掲載開始（2018.9.20～）
 - (4) (1)(2)を補完する情報発信源として、SNS (facebook) を利用。協会をより身近に感じてもらえる事の出来るトピックを選び、職員全員で情報をアップ。
<https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp>

II. 社会貢献促進事業（公益目的事業2）

1. 研修事業

(1) 定例セミナー

年度の初めは新任の CSR 担当者も多いことから、今年度も4月より5回シリーズで基礎講座を開講した。

（ ）前年度

実施日	内容	参加者数
第 342 回 4 月 25 日	CSR 基礎講座 I 『SDGs 時代の温故知新～CSR の原点を企業市民の視点から考える』 ＜講師＞松岡 紀雄 氏（神奈川大学名誉教授）	30 名 (35 名)
第 343 回 5 月 16 日	CSR 基礎講座 II 『SDGs 時代の社会と企業 ～持続可能な社会づくりに求められる企業の視野と戦略～』 ＜講師＞川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)	64 名 (25 名)
第 344 回 6 月 6 日	CSR 基礎講座 III 『真にサステナブルな企業とは～ESG 投資の視点も含めて』 ＜講師＞河口 真理子 氏（株式会社大和総研 主席研究員）	53 名 (19 名)
第 345 回 6 月 18 日	CSR 基礎講座 IV 『ダイバーシティを組織の力に変えるには～多様性の中での相互理解』 ＜講師＞熊谷 晋一郎 氏（東京大学 先端科学技術研究センター 准教授）	36 名 (35 名)
第 346 回 7 月 3 日	CSR 基礎講座 V 『CSR の最新トレンド～SDGs の国内・海外の動向を踏まえて』 ＜講師＞関 正雄 氏 (損害保険ジャパン日本興亜株式会社 CSR 室シニアアドバイザー)	68 名 (49 名)
第 347 回 7 月 20 日	『多様な人の社会参加と新しいテレワークを可能にするロボット』 ＜講師＞吉藤 健太郎氏（株式会社オリィ研究所共同創設者/代表取締役 CEO)	24 名 (32 名)
第 348 回 9 月 18 日	『SDGs 時代における CSR の対外コミュニケーション』 ＜講師＞ 宮田 千夏子 氏 (ANA ホールディングス株式会社 コーポレートコミュニケーション室 コーポレートブランド・CSR 推進部 部長) 内田 雄司 氏 (大和ハウス工業株式会社 CSR 部 ソーシャルコミュニケーション室長) 塩田 裕子 氏 (株式会社丸井グループ ESG 推進部兼サステナビリティ部 ESG 推進兼サステナビリティ担当課長)	74 名 (43 名)
第 349 回 10 月 29 日	『障がい者雇用の促進と定着』 ＜講師＞ 中林 良則 氏 (株式会社キューピーあい 代表取締役社長) 木村 幸絵 氏 (ソフトバンク株式会社 人事総務統括 CSR 統括部 CSR 部 CSR1 課長) 秦 政 氏 (NPO 法人 障がい者就業・雇用支援センター 理事長)	36 名 (16 名)
第 350 回 11 月 15 日	『サステナビリティ経営を会計から捉える ～「経済の時代」から 「人間の時代」へ』 ＜講師＞ 國部 克彦 氏（神戸大学大学院経営学研究科 教授）	32 名 (26 名)
第 351 回 12 月 20 日	『「まひるのほし」映画鑑賞と対談～ボーダレス・アートの 20 年～』 ＜対談登壇者＞ 北岡 賢剛 氏	47 名 (66 名)

	(社会福祉法人グロー 理事長/ボードレス・アートミュージアム No-Ma 設立者) 小林 瑞恵 氏 (社会福祉法人愛成会 副理事長・アートディレクター)	
第 352 回 1 月 17 日	『外国人受け入れ新政策～日本の未来はどう変わるのか?～』 <講師>毛受 敏浩 氏 (公益財団法人 日本国際交流センター 執行理事)	35 名 (20 名)
第 353 回 2 月 15 日	『CSR・社会貢献活動を「伝えるコツ」～参加意欲を高める訴求力強化 ワークショップ～』 <講師> 伊藤 公一 氏 (株式会社電通九州 チーフクリエイティブオフィサー) 金子 花菜 氏 (株式会社電通 総務局 社会貢献部 コミュニケーションデザイナー/ 「伝えるコツ」担当)	73 名 (30 名)
第 354 回 3 月 25 日	『社員の主体的参加がつくる次世代教育支援プログラム』 <講師> 川向 緑 氏 (日本オラクル株式会社 コーポレートシチズンシップ) 中野 友華 氏 (株式会社ファーストリテイリング サステナビリティ部 ソーシャルイノベーションチーム)	20 名 (50 名)

平成 30 年度 592 名
(平成 29 年度 446 名)

(2) フィランソロピーセミナー in 関西

平成 30 年度も、関西（大阪）を中心に開催した。

() 前年度

実施日	内容	参加者数
第 29 回 6 月 11 日	『障がい者スポーツを通じて実現する共生社会』 【卓球バレーの体験付き】 <講師>堀川 裕二 氏 社会福祉法人太陽の家 (大分県別府市) 日本卓球バレー連盟 副会長・普及委員長 日本障害者スポーツ学会理事	12 名 (15 名)
第 30 回 9 月 25 日	統合報告書から見る『CSR についての対外的コミュニケーション』 <講師> 野崎 治子 氏 (株式会社 堀場製作所・理事 管理本部 HORIBA COLLEGE 学長兼 CSR 担当) 内田 雄司 氏 (大和ハウス工業株式会社 CSR 部 ソーシャルコミュニケーション室長)	29 名 (29 名)
第 31 回 12 月 22 日	地域を支える次世代の育成～地域・企業・学校の連携を考える～ (2018 年度 JKA 補助事業 共同開催) <講師> 岡本 工介 氏 (一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長) 富田 年久 氏 (大阪府立東住吉高等学校教諭) 神山 和英 氏 (大阪府立長吉高等学校教諭) 相良 有希子 氏 (阪急阪神ホールディングス株式会社 人事総務室 総務部 社会貢献担当 課長) 船溪 俊輔 氏 (大阪ガス株式会社近畿圏部ソーシャルデザイン室)	16 名 (20 名)
第 32 回 3 月 5 日	『サステナビリティ経営について考える』 ～会計学の観点から～ <講師> 國部 克彦氏 神戸大学大学院経営学研究科 教授	19 名 (27 名)
第 33 回 3 月 22 日	『次世代につながるまちづくりに必要な、企業、行政、地域住民の連携』 ～アメリカ オレゴン州 ポートランドの事例から学ぶ～ <講師> 西芝 雅美氏 ポートランド州立大学 (PSU) ハットフィールド大学院行政学部長 准教授	33 名 (一)

(3) Stone Soup Club (ストーン・スープ・クラブ)

実施日	内容	参加者数
第 41 回 6 月 25 日	『障がい者スポーツを通じて実現する共生社会』【卓球バレーの体験付き】 ＜講師＞堀川 裕二 氏 社会福祉法人太陽の家（大分県別府市） 日本卓球バレー連盟 副会長・普及委員長 日本障害者スポーツ学会理事 兒玉友氏 日本福祉大学 助教授	13 名
第 42 回 10 月 25 日	『フィリップス・グローバルのサーキュラーエコノミーへの取り組みを直に聞く』 ＜講師（通訳つき）＞ Harald Tipper, Senior Director, Group Sustainability, Royal Philips Markus Laubscher, Sustainability Professional (Circular Economy & Transformation), Royal Philips	22 名
第 43 回 3 月 18 日	『米国 CSR の最新トレンド』 ＜講師（通訳つき）＞ Mr. Timothy J. McClimon, President of American Express Foundation, Senior Vice President for Corporate Social Responsibility, American Express Company	19 名

(4) 経営者向けエグゼクティブセミナー

平成 30 年度も、企業経営者向けセミナーを 5 回シリーズで開講。自然環境の深刻な悪化、経済格差の進行や新たな技術の急速な進展による予期しなかった問題の発生など、企業をとりまく環境が激変する中、今後の企業経営はどうあるべきか、道筋を多角的に考えるセミナー。

総合プロデューサーとして株式会社レスポンスアビリティの足立直樹氏が協力。

() 前年度

実施日	内容	参加者数
第 1 回 10 月 22 日	『SDGs 時代のサステナブルビジネスを考える』 ＜講師＞ 足立 直樹 氏 (株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)	4 社 6 名 (7 社 11 名)
第 2 回 11 月 8 日	『2030 年代を視野に入れた長期戦略 ～自社と社会の持続可能性を高めるためのバックキャストイング～』 ＜講師＞川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)	5 社 7 名 (7 社 11 名)
第 3 回 12 月 14 日	『グローバルな ESG 投資市場からの視点』 ＜講師＞水口 剛 氏 (高崎経済大学 教授)	6 社 8 名 (7 社 9 名)
第 4 回 1 月 24 日	『予測不能な時代に求められるクリエイティビティとイノベーション』 ＜講師＞土谷 貞雄 氏 (株式会社貞雄 代表)	6 社 8 名 (8 社 10 名)
第 5 回 2 月 27 日	『しあわせな社会をいかに実現すべきか～幸福学からの提言～』 ＜講師＞前野 隆司 氏 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)	6 社 8 名 (一)

(5) 「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」
～NPOリーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～

- ① American Express Leadership Academy Global Alumni Summit 2018
「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」のスポンサーである
アメリカン・エクスプレス財団より招待を受けて、研修生とパートナー団体を対象にした
グローバル・サミットに落合が出席した。
日時：平成30年4月16日（月）から17日（火）
会場：マンハッタン・コミュニティ・カレッジ（米国ニューヨーク市）
- ② アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018 第10期 福岡
日時：平成30年5月31日（木）から6月2日（土）2泊3日
会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前（福岡県福岡市）
総合監修：米倉誠一郎氏（法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授）
研修参加者：全国のNPO次世代リーダー32名（公募および推薦）

プログラム：

<基礎講座（理念・哲学）>

- ・「未来を拓くイノベーション」（米倉誠一郎氏）
- ・「率先垂範のリーダーシップ」（米倉誠一郎氏）

<実務講座（業務遂行能力）>

- ・「ロジカルシンキングと問題解決スキル」
- ・「モチベーション・マネジメント」
- ・「ユニバーサルトイレ・チェック（フィールドワーク）」
- ・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」等

<グループワーク>

- ・「私の履歴書」執筆を含む「自己探求の旅」
- ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
- ・課題プレゼンテーション

- ③ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018
第10期 東京『フォローアップ・セッション』
日時：平成30年9月6日（木）12:30～18:30
会場：ワテラスコモンホール（東京都千代田区）
参加者：2月の合宿研修に参加した研修生30名
- ④ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2018
第10期 福岡『フォローアップ・セッション』
日時：平成30年11月29日
会場：福岡NPO・ボランティアボランティア交流センター「あすみん」
参加者：5月の合宿研修に参加した研修生28名
- ⑤ アメリカン・エクスプレス・アカデミー10周年記念プログラム
日時：平成31年3月19日
会場：日本財団ビル
主催：公益社団法人日本フィランソロピー協会
共催：特定非営利活動法人エティック
参加者：アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミーおよびアメリカン・
エクスプレス・サービス・アカデミー卒業生ほか129名参加

2. 顕彰事業

(1) 第16回企業フィランソロピー大賞

7月2日(月)より告知を開始し、下記のスケジュールにて事業を進める。

<スケジュール>

平成30年7月2日～9月14日	公募
平成30年10月10日	第1次選考委員会
平成30年10月中旬～11月下旬	各社ヒアリング(10社程度)
平成30年12月27日	第2次選考委員会・贈呈先企業決定
平成31年1月中旬	贈呈先企業の発表
平成31年2月28日	贈呈式(於:日本プレスセンター)

<選考委員>

委員長	武田 晴人氏(東京大学 名誉教授)
委員	井出 明子氏(日本電信電話株式会社 常勤監査役)
	佐藤 雄二郎氏(株式会社共同通信社 代表取締役社長)
	渋谷 健氏(コモンズ投信株式会社 取締役会長)

<受賞企業>

企業フィランソロピー大賞 UBSグループ(東京都千代田区)
UBS証券株式会社、UBS銀行東京支店
UBSアセット・マネジメント株式会社
UBSジャパン・アドバイザーズ株式会社

<企業フィランソロピー賞>

【選考委員長特別賞】	株式会社富士メガネ	(札幌市)
【幸福への轍(わだち)賞】	有限会社さいとう工房	(東京都墨田区)
【輝く笑顔とともに賞】	資生堂ジャパン株式会社	(東京都港区)
【いのちの伝道師賞】	損害保険ジャパン日本興亜株式会社	(東京都新宿区)
【未来を拓くAKARI賞】	パナソニック株式会社	(大阪府門真市)
【地域共創賞】	株式会社みなと銀行	(神戸市)

(2) 寄付川柳

募集期間:平成30年11月1日(木)～平成31年1月15日(火)

参加費:1,000円(2句まで)但し、18歳以下は無料。

(運営協力費)

表彰:最優秀賞(1作品)賞金3万円および記念品
優秀賞(2作品)賞金1万円および記念品
佳作(若干数)記念品

選者:水野 タケシ 氏/コピーライター、川柳家
高橋 陽子/公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長

発表:入選作は平成31年2月末に当協会のホームページで発表。

応募詳細:応募総数

前回366句(207名より)→今回1,567句(852名より)

参加費合計

前回34,000円(29名より)→今回87,000円(76名より)

応募方法

●WEBでのご応募:122名

●郵便でのご応募※スタッフへの手渡しも含む:731名

●WEB・郵送でのご応募:1名

男女構成比

○男性 703 名、女性 142 名、不明 7 名

年齢構成比

☆最年少 4 歳、最高齢 94 歳。

年齢	人数
10 歳未満	4
10 代	757
20 代	4
30 代	10
40 代	8
50 代	13
60 代	18
70 代	31
80 代	4
90 代	2
不明	1
計	852

- A. 選考 ① 第一次選考として職員 6 名により 285 句に絞り込み。
② 最終選考会を平成 31 年 1 月 31 日（木）13：00～に実施。
選考委員：有識者として川柳家「水野タケシ」氏、高橋理事長

B. 選考結果

最優秀賞	役に立てぼくのわずかなおこづかい	矢作 元希	16 歳
優秀賞	天井を親子にかえてレジ募金	太田 堯子	72 歳
優秀賞	入れたときミスに気づいた諭吉ゆく	さくら太郎	14 歳
佳作	教室へそよ風送れこの寄金	南 信	94 歳
佳作	できることなんもないからせめて寄付	坂梨和江	65 歳
佳作	女房とは募金手伝いキッカケで	パリっ子	56 歳
佳作	髪切った失恋じゃない寄付したの	入り江わに	55 歳
佳作	ありがとう今の私に出来ること	はな	42 歳
佳作	人見知りでも出来る今ネット募金	青我奈柚	35 歳
佳作	映（ば）えずともみんなでやれば流行に	松本 理史	16 歳
佳作	募金箱細い穴から君を見る	夜明 俊介	16 歳
佳作	立ち止まる足の数だけ救われる	木村 友哉	16 歳
佳作	新年号今年はぼくの寄付元年	齋藤 光起	13 歳

3. フィランソロピー・バンク事業（個人寄付普及事業）

(1) NPO 向け

社名	内容
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド	熊本地震の被災者支援のため、ギフトカードの売上げに応じた寄付を実施。
株式会社 NTT データ	社内で実施したバレンタイン・チャリティープログラムの収益を、3 団体に寄付。
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野の NPO 33 団体に寄付金を配布。
株式会社ジェシービー	被災地支援の取組みとして実施。平成 30 年（第 8 回）は、東日本大震災と 7 月豪雨災害の支援として 22 団体を選定済、11 月に寄付金を配布。
Fidelity International Foundation	NPO の基盤整備を目的として 2 団体を選定中。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 18 団体、および社員がボランティアをしている 12 団体に寄付金を配布。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算したものと、社員からの寄付を合算し、全国 10 ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付する。平成 30 年 4 月に 11 団体の寄付先が決定。6 月上旬に寄付を実施、9 月に活用報告書を受領済み。 平成 31 年 3 月に、次年度の寄付先調査を実施予定。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付。 2 月 20 日に贈呈式を実施し、各団体 167,000 円寄付 社会貢献活動基金を通じて、児童支援、被災地支援、障がい者・高齢者支援、環境保全および LGBT 支援を行う団体から 8 団体を選考し寄付。平成 31 年 1 月に候補団体 20 団体を提案。3 月に寄付先確定し、配布実施
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体に寄付予定。寄付先は前年度より継続。
TOYO TIRE 株式会社	環境基金の内 1,200 万円分の寄付を担当。環境問題に携わる団体を公募の上、選考し助成する。1 団体上限 50 万円。 申請団体数：29 団体 審査の結果 19 団体に助成。助成総額：18,069,250 円

(2) 個人向け

① 東京海上日動あんしん生命 奨学金制度

➤ 応募資格等

- ◆ 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、高等学校等から大学等への進学希望がある方
- ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方
- 募集期間：平成30年6月1日（金）～平成30年10月31日（水）
- 募集人数：60名（10名増）
- 給付額：年間 30 万円
- 申請者数：115 名

② 東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度

- 応募資格等
 - ◆ 疾病により保護者を失い、経済的理由により支援を必要とする未就学の遺児かつ平成25年4月2日～平成28年4月1日生まれのお子さまを養育する方
 - ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方
- 募集期間：平成30年6月1日（金）～平成30年10月31日（水）
- 募集人数：30名（昨年度は100名）
- 支援内容：
 - ◆ 株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を、年少～年長期間に1年間～最大3年間、無償で提供
 - ◆ 教材提供期間中、進級の際「進級お祝い金」として年間3万円を給付。（新規）
 - ◆ 進学前のランドセル寄贈
- 申請者数：7名

新規

③「誕生日寄付事業」

- ・寄付のプラットフォーム(専用ウェブサイト)を作り、個人の寄付の実践を促進する事業を平成30年度より開始し、平成31年度も戦略的に取り組んでいく。集まった寄付金は、審査員会にて審議・決定した、各カテゴリの団体(複数)へ届ける。
- ・**支援分野・寄付先団体は**、「子どもたちの今を支え、未来に投資する」をコンセプトに、今年度は、「困難を抱える青少年への支援」に特化。特に、日の当たりにくい分野（以下、カテゴリ）に関心をもってもらい、彼らを支援すると同時に、次世代を担う彼らが、健全な市民へと成長することをサポート。集まった寄付金は、審査員会にて審議・決定した、各カテゴリの団体（複数）へ届ける。

★ 生きるを支える

児童虐待相談対応件数は統計開始以来、毎年増加し続けています(平成24年度は平成11年度の約6倍)。虐待や家庭崩壊などにより、耐えられず逃げてきた子、風俗産業や暴力団を頼らざるを得ない子、もう一度、人生をやり直したい子どもたちを守り、支える活動です。

<寄付先団体>

- ・社会福祉法人カリヨン子どもセンター
- ・一般社団法人若草プロジェクト

★ 学びを支える

日本には現在、義務教育を修了していない人たちが約13万人います

(平成22年国勢調査)。加えて、引きこもりや不登校などにより十分に教育を受けられなかったにもかかわらず、卒業証書を手にした「形式卒業者」と呼ばれる若者が多数生まれています。彼らの学びを支える活動です。

<寄付先団体>

- ・福島に公立夜間中学をつくる会
- ・一般社団法人岡山に公立夜間中学校をつくる会

★ 外国人を支える

全国には、3万人以上の海外にルーツを持つ子どもたちが、日本語指導を必要としています。親の移民や単純労働などのための定住により日本に連れてこられ、言葉の問題をはじめ、文化・習慣の問題、親の貧困の問題などにより、いじめ、非行、引きこもり、親からの虐待などにより苦しんでいる子どもたちがいます。このような子どもたちの居場所づくりや学習支援などの活動です。

<寄付先団体>

- ・特定非営利活動法人 青少年自立援助センター (YSC グローバル・スクール)
- ・特定非営利活動法人 大泉国際教育技術普及センター

賛同人

瀬戸内 寂聴 小説家・天台宗尼僧
川淵 三郎 公益財団法人日本サッカー協会 相談役
前野 隆司 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
米倉 誠一郎 法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
渋谷 健 コモンズ投信株式会社 取締役会長
加藤 登紀子 シンガーソングライター
日比野 克彦 東京藝術大学美術学部長
竹川 隆司 東北風土マラソン創始者 実行委員会副実行委員長
岡本 和久 I-O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長
伊藤 宏一 千葉商科大学 人間社会学部 教授
小宮山 宏 三菱総合研究所 理事長
古賀 良彦 杏林大学 名誉教授
板東久美子 日本司法支援センター理事長

(平成 31 年 3 月 31 日現在／敬称略 順不同)

平成 30 年度 実施事項

- ・企画会議
平成 30 年 9 月より毎月実施。場所：当協会会議室
メンバー (以下、敬称略)
土谷 貞雄 様 (株式会社貞雄代表)
清水 亘平 様 (オフィスナイス代表／デザイン情報学科 准教授)
田中 辰也 様 (株式会社 STYZ 代表取締役)
大西 誠 様 (シニアフェロー／元株式会社ジャルパック代表取締役社長)
和山 正秀 様 (株式会社ケイジェイシー)
橋川 幸夫 様 (株式会社デジタルメディア研究所代表取締役)
- ・寄付先審査会 平成 31 年 1 月 16 日 場所：当協会会議室
当協会が探索した以下の候補 6 団体について審議・決定頂いた。
<審査員>
嶋田 実名子 様 (個人情報保護委員会 委員長)
若林 朋子 様 (特定非営利活動法人 芸術公社 理事)
野澤 和弘 様 (株式会社毎日新聞社 論説委員)
- ・記者発表のニュースリリース
平成 31 年 1 月 11 日 PR ワイヤーにて全メディア配信
佐藤 雄二郎理事 (株式会社共同通信社 代表取締役社長) より在京各紙社会部長へご依頼頂いた
- ・記者発表
平成 31 年 1 月 23 日 会場：東京会館

4. フィランソロピー社会基盤整備事業

(1) 個別企業社会貢献推進事業

A. 従業員ボランティア支援事業

① 「ボランティアウェブ」利用企業

社名	内容
株式会社NTT ドコモ	平成 28 年 4 月より通年での契約で「ボランティアウェブ」の利用を開始。現在 5 地域で利用中。
日本ロレアル株式会社	平成 30 年 6 月の 1 カ月のみの期間限定利用。全世界でのボランティア強化月間のプログラムの受入先調整及び申込受付業務を受託。今年は、相乗りプログラムを含め、60 種、740 名分のプログラムを「ボランティアウェブ」を通じて募集し、536 名が活動した。
株式会社ジェーシービー	平成 23 年から実施している「JCB 社会貢献プログラム」のボランティア受付管理を「ボランティアウェブ」を通じて引き続き利用中。
サントリーホールディングス株式会社	平成 29 年 3 月より、社内の「働き方改革」の一環で、「ボランティアウェブ」を利用中。
日本たばこ産業株式会社	平成 31 年 3 月より利用開始
株式会社電通	平成 31 年 4 月より利用開始
株式会社三菱 UFJ 銀行	平成 31 年 4 月より利用開始

② 個別コーディネート企業

社名	内容
アクセンチュア株式会社	部門毎で不定期に、新入社員研修は毎月、年 26～30 回程度のプログラムを企画運営。 平成 30 年度新規企画として WELgee による在日難民とのワークショップを実施（1 月 19 日（土）、2 月 9 日（土））。
MSD 株式会社	平成 30 年度は、新入社員ボランティアの一環として、実施するボランティアプログラムを当協会にてコーディネートし、6 月に実施。
株式会社オリエント コーポレーション	新入社員の半年後フォローアップ研修のボランティアプログラムをコーディネート。10 月に 2 回実施。
株式会社かんぽ生命保険	会議室ボランティアを年 2 回実施。平成 30 年度は 8 月と 2 月に実施。
新日鉄住金エンジニアリング株式会社	平成 26 年より、3 カ月に 1 回の頻度でボランティアプログラムを実施。今年度は 6 月と 9 月に本社にて開催。
積水化学工業株式会社	東京本社への呼びかけで、全国にある工場や子会社等单位でのボランティアプログラムを実施。
大日本印刷株式会社	従業員の被災地ボランティアプログラムの企画および実施を支援。今年度は、7 月に 31 名にて宮城県石巻市、10 月に 20 名にて熊本県阿蘇市、11 月に石巻にて 15 名で実施。
フィリップ モリス ジャパン 合同会社	従業員ボランティアプログラムの申込受付を「ボランティアウェブ」を通じて支援。
プルデンシャル ジブラルタ ファ イナンシャル生命保険株式会社	年間を通じ、部署ごとに希望するボランティア活動先を紹介。6 月 19 日（火）に手話講習会、7 月 21 日（土）に高齢者施設の納涼祭手伝いを実施。

リシュモン ジャパン株式会社	平成 30 年 7 月 21 日（土）に江の島ビーチクリーンを実施。 9 月 29 日（土）に八王子の里山整備ボランティアを 予定していたが、雨天のため中止。
株式会社レオパレス 21	平成 30 年 11 月入会。初めてとなる社内プログラムを実施。 平成 31 年 3 月 5 日「絵本を届ける運動」3 月 19 日 「みんなで布チョッキン」
株式会社三菱 UFJ 銀行	平成 31 年 4 月の「ボランティアウェブ」開始に先駆け、 下記 3 回の社内プログラムを実施。 3 月 14 日（金）「布チョッキン」幼い難民を考える会@東京 3 月 18 日（月）「外貨コイン仕分け」 日本ハビタット協会@東京 3 月 19 日（火）「セラピードッグ小物づくり」 日本レスキュー協会@大阪

B. 助成支援事業

プログラム名・社名	内容
「田辺三菱手のひらパート ナープログラム」 田辺三菱製薬株式会社	難病患者団体、支援団体が実施する活動への助成金 プログラム。10 月 4 日（本社）、11 日（東京本社）にて 第 5 期助成団体の報告会を実施。10 月 1 日より第 7 期 （平成 31 年度助成事業）募集を開始（11 月 15 日締め切り）。 平成 31 年 1 月 21 日 選考委員会開催。応募 43 団体のうち 19 団体へ助成決定。
「JT NPO 助成事業」 日本たばこ産業株式会社	地域コミュニティ再生と活性化に取り組む NPO 助成事業の 第一次書類審査を実施。

C. 社会貢献活動支援事業

プログラム名・社名	内容
「国産小麦ゆめちからの栽培研究 プログラム」 敷島製パン株式会社	中高生向け社会貢献プログラムの一環で食料自給率を考える ワークショップを企画・ファシリテート。6 月 17 日（日）に 刈谷工場（愛知県）にて実施。 浜松日体中・高等学校、静岡県立富岳館高等学校、 名古屋経済大学高蔵高等学校の生徒 20 名が参加。
「森と紙のなかよし学校」 日本製紙株式会社	日本製紙が所有する菅沼社有林で小学生親子を対象に 行う環境教育プログラム。平成 30 年度は 9 月 22 日（土）・ 23 日（日）に実施。12 家族 30 名が参加。
「ボランティア演芸会」 王子ネピア株式会社	業務用大人オムツ等の売上一部の支援により、全国の 介護施設で、全日本おむつ団と称する東西 10 名の落語家による 演芸会を 80 回開催した。
「森里海つなぐプロジェクト」 東京ガス株式会社	平成 29 年度から開始した、森、里山、海、をつなぐ環境 社会貢献活動の全体の支援。有識者を含む運営委員会で進捗 確認・意思決定をしながら遂行。 5 月 20 日：海の活動として神奈川県海の公園にて 「アマモ再生イベント」実施。（東京ガスの職員とその 家族 93 名を含み総勢 191 名が参加。） 11 月 11 日：5 月の活動にて採取したアマモの種を育て 播く海の活動を実施（東京ガスとその家族 23 名が参加。） 11 月 23 日～25 日：中学生を対象に、東京都の都心部と里山 （東京都檜原村）とをつなぐ「聞き書き」を実施。

	平成 31 年 3 月 21 日報告会を開催。 平成 31 年 2 月 9 日：里の活動として、東京都清瀬市の保全林にて里山保全活動を実施予定だったが、雪のため安全面の配慮から中止。
「新入社員研修」 東京海上日動火災保険株式会社	平成 30 年度新入社員 212 名（グローバルコース採用） プラス 370 名（エリアコース採用）の新入社員研修について 全国 11 地域での研修プログラムを作成。 平成 30 年 4 月 16 日～20 日に実施。
「SAVE SOAP プロジェクト」 アンファー株式会社	創立 30 周年記念事業として、新たに開発した蚊よけ成分を含んだ石鹸を日本国内での売り上げに応じて カンボジアで母子衛生教育とともに配布する。 カンボジアでの教育プログラムと配布に関しては 「認定特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会」と 協働。石鹸配布の補助として、洗うと絵が浮き上がる絵本を アンファー者が作成。今後衛生教育の補助教材として活用 する。平成 30 年 5 月からカンボジア北部にレアビヒアにて 本格配布スタート。
フィリップ モリス ジャパン 合同会社	西日本豪雨災害被災地への義援金の申込受付サイトを 当協会にて構築し、運営支援。

D. 物品寄贈「あげます・もらいます」事業

会員企業から引っ越し・事業の変更等々で使うことがなくなった物品などの提供を受け、必要とする NPO へ橋渡しした。

平成 30 年 4 月～平成 31 年 2 月の期間で、のべ 12 社からの提供品をのべ 55 団体へ寄贈した。

寄贈時期	企業	寄贈物品	寄贈先団体数
平成 30 年 8 月	株式会社 J-オイルミルズ	オイルギフトセット	1 団体
平成 30 年 10 月	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	音声会議システム	2 団体
平成 30 年 11 月	三菱地所株式会社	防災毛布・文具	4 団体
平成 30 年 11 月	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	文具	2 団体
平成 30 年 12 月	ジョンソン・エンド・ジョンソングループ	中古カメラ	12 団体
平成 31 年 2 月	楽天株式会社	FC バルセロナとのコラボグッズ	10 団体
平成 31 年 2 月	株式会社インフォメーション・ディベロプメント	米	1 団体

※企業より許可を得た案件のみ掲載

(2) 被災地復興支援事業

A. キリン絆プロジェクト

① 支援先フォロー

「復興応援 キリン絆プロジェクト」の支援先のフォローのため、引き続き情報収集や関係性維持のためのコンタクト、ネットワークの構築を進めている。

9月14日、仙台にて「キリン絆 みちのくカンファレンス」を開催。キリン絆プロジェクトの第二ステージで支援した、農業および水産業のプロジェクト41団体・組織、総勢142名が参加。講演やグループディスカッションを通して、相互に現状の課題を理解し、県や業種を越えての連携や地域の復興・発展のきっかけとした。

平成31年3月27日、福島県郡山市の「郡山地域果実醸造研究会」への人材育成のための助成事業の報告会を開催。

② 「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」(フォロー)

東北での「東北復興 農業トレーニングセンタープロジェクト」の経験を活かして発足し、平成29年度より統合した、地域創生に取り組む各地の事業者の支援について、公益性・公平性の観点から、アドバイスをを行なった。

平成31年3月9日、平成30年度の「最終プレゼンテーション」の報告会を実施予定。

③ 支援先フォロー

「復興応援 キリン絆プロジェクト」の支援先のフォローのため、引き続き情報収集や関係性維持のためのコンタクト、ネットワークの構築を進めた。

9月14日、仙台にて「キリン絆 みちのくカンファレンス」を開催。キリン絆プロジェクトの第二ステージで支援した、農業および水産業のプロジェクト41団体・組織、総勢142名が参加。講演やグループディスカッションを通して、相互に現状の課題を理解し、県や業種を越えての連携や地域の復興・発展のきっかけとした。

平成31年3月27日、福島県郡山市の「郡山地域果実醸造研究会」への人材育成のための助成事業の報告会を開催。

④ 「地域創生トレーニングセンタープロジェクト」(フォロー)

東北での「東北復興 農業トレーニングセンタープロジェクト」の経験を活かして発足し、平成29年度より統合した、地域創生に取り組む各地の事業者の支援について、公益性・公平性の観点から、アドバイスをを行なった。

平成31年3月9日、平成30年度の「最終プレゼンテーション」の報告会を実施。全国から250名超の参加者が参集し、1年間の取り組みの成果発表とともに、地方創生のあり方などについて、パネルディスカッションを行い、学びとネットワークを深めた。

B. サントリー・チャレンジド・アスリート

東日本大震災復興支援として以下の3事業を遂行した。

① 第5期「チャレンジド・アスリート奨励金」

7月より公募開始。個人、団体に総額約3,000万円給付予定。本年よりアスリートのみならず指導者に転身した方も含め審査した。

申請数

	個人	団体
岩手県	18	10
宮城県	31	17
福島県	18	5

給付数

	個人	団体
岩手県	11	6
宮城県	22	10
福島県	17	8

給付総額：個人 約 1,400 万円、団体 約 2,000 万円 計 3,400 万円

<審査員> 4名

福留 史朗氏（パラリンピアン：陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

増子 恵美氏（パラリンピアン：車椅子バスケットボール、
一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事）

横澤 高德氏（パラリンピアン：チェアスキー）

高橋 陽子（公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長）

② 「チャレンジド・スポーツアカデミー」

・アスリート・ビジット

チャレンジド・スポーツに対する子どもたちの理解を深めるため、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、講演や車椅子バスケットボール体験会などを実施した。本年から支援学校向けのアスリート・ビジットをボッチャ競技で開催した。

開催日	実施会場	生徒数
6月13日	福島県岩館村草野・臼田・飯樋小学校、岩館中学校	52名
6月20日	宮城県岩沼市立玉浦小学校	64名
7月2日	岩手県田野畑村立田野畑中学校	78名
9月25日	宮城県仙台市立岡田小学校	31名
10月19日	福島県檜葉町立檜葉北・南小学校	39名
10月24日	岩手県野田村立野田小学校	30名
11月19日	岩手県立盛岡となん支援学校*	22名
平成31年 1月30日	福島県田村市立緑小学校	48名

*盛岡となん支援学校はボッチャの体験と用具寄贈を実施。今後3県の支援学校で実施予定。

・チャレンジド・スポーツ体験教室

学校ではなく公募によりチャレンジド・スポーツの体験会を実施。本年は岩手県にて開催。

開催日	実施会場	参加数	実施競技
12月9日	岩手県ふれあいランド岩手	120	車いすバスケットボール、 ウィルチェアラグビー、 陸上（ガイド、レーサー）、 ボッチャ、卓球バレー

③ 「チャレンジド・スポーツ育成サポート」

チャレンジド・スポーツ育成のため、基盤強化・環境整備などを支援。本年より各県にて車椅子導入教室を実施し、障害者スポーツのすその拡大に向けた講座を実施した。

車椅子導入教室

開催日	実施会場	参加者数	講師
4月	盛岡市立乙部体育館	12名	橋本大佑氏 （ドイツ障害者スポーツ連盟 公認リハビリテーション スポーツ指導者）
21、22日	ふれあいランド岩手	30名	
8月5日	宮城県多賀城市総合体育館	27名	

C. チャリティー・リレーマラソン東京 2018

7回目となる平成30年(2018年)度は、東北から4校、熊本から3校、東京から6校が参加。マラソンイベントの前には東北・熊本・東京参加校生徒による合同募金を実施。12月16日に東北・熊本各校の使途の発表を行う報告会を開催。本年から参加各校での活動の様子を映像にまとめ、使途報告会で発表した。

特別協賛：EY新日本有限責任監査法人

協賛：トヨタ自動車株式会社、華為技術日本株式会社、三菱地所株式会社
 ロート製薬株式会社

特別協力：パナソニック株式会社

(Tシャツ提供：東洋アルミニウム株式会社)

<参加校>

東北 (4校)	熊本 (3校)
<ul style="list-style-type: none"> ・宮城県大崎市立古川中学校 ・宮城県仙台二華中学校 ・東北学院中学校 ・福島県いわき市立平第三中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・高森町立高森中学校 ・高森町立高森東学園義務教育学校 ・御船町立御船中学校

東京 (6校)	
<ul style="list-style-type: none"> ・中央区立銀座中学校 ・墨田区立両国中学校 ・江東区立有明中学校 	<ul style="list-style-type: none"> ・江東区立深川第二中学校 ・八王子市立四谷中学校 ・東京学芸大学附属国際中等教育学校

<イベント実施>

日程	イベント内容	場所
5月12日(土)	東北熟議	東北学院大学土樋キャンパス
5月27日(日)	熊本熟議	高森町立高森中学校
5月12日(土)	東京熟議	東京学芸大学附属国際中等教育学校
6月	映像制作	東北・熊本・東京参加校
6月～7月	東京参加校による募金活動	都内
7月14日(土)	合同募金活動 歓迎会	都内 EY新日本有限責任監査法人会議室
7月15日(日)	リレーマラソン 募金贈呈式	都内 EY新日本有限責任監査法人会議室
12月16日(日)	寄付金使途報告会	東北学院大学土樋キャンパス

8月末までに募金総額は1,814,778円となり、被災地からの参加各校に215,000円、西日本豪雨復興のため、(認定)特定非営利活動法人ハビタット協会、(認定)特定非営利活動法人難民を助ける会に計304,110円を寄付した。

Ⅲ. 共生社会創造事業 (公益目的事業3)

1. 共生社会づくり推進事業

(1) 寄付醸成事業

「まちかどのフィランソロピスト賞」に関わる意見交換会

第20回目の開催を機に、「まちかどのフィランソロピスト賞」を、一旦休止し、この顕彰事業の本旨を新事業「誕生日寄付事業」として引き継ぎ、実施することにつき、関係者の皆様にお集まり頂き、以下のスケジュールで意見交換会を実施した。「まちかどのフィランソロピスト賞」休止の背景、新企画「誕生日寄付事業」の概要等をご説明し、関係者のご理解・賛同を頂くとともに、

「個人寄付推進事業」について各社の取り組みの情報を共有し、今後、当協会ウェブサイトを通じて展開する「誕生日寄付推進事業」への、広報活動、全国の寄付者の情報収集にご協力頂けることとなった。

開催日時：平成30年10月3日（水） 16：00～17：30

場所：日本フィランソロピー協会 会議室

議題：①個人寄付を含めた顕彰事業の今後の在り方について
②誕生日寄付の今後の進め方について

参加者：【外部関係者】

出口 正之 様（国立民族学博物館 教授）

河崎 保徳 様（ロート製薬株式会社 広報・CSR推進部 部長）

小林 征人 様（大和ハウス工業株式会社 CSR部 社会責任グループ グループ長）

小淵 康博 様（西武信用金庫 法人推進部）

【日本フィランソロピー協会】敬称略

浅野 史郎 会長（当日急遽出張のため、メッセージのみ）

村木 厚子 理事

高橋 陽子 理事長

大西 誠 シニアフェロー（元株式会社ジャルパック代表取締役社長）

(2) フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障がい者の経済的自立のための名刺制作事業。

1件：100枚

	平成26年度	平成27年度	平成28年度	平成29年度	平成30年度
制作件数	270	333	356	348	308

(3) 声の花束

今後、新規の音訳ファイルを受け付けないこととなった。既存の音訳ファイルは継続して専用サイトにて公開する。

作品名	著作権者	音訳者数
家族力大賞2009	東京都社会福祉協議会	14名
きずなづくり大賞2015	東京都社会福祉協議会	13名

(4) 「企業の学校教育・青少年教育支援活動に関する調査」

次世代教育のための学校・企業連携を促進することを目的に、アンケート調査を実施。

【調査対象】学校教育・青少年教育に関する自主プログラムを実施している企業

【調査期間】平成30年9月10日（月）～平成30年11月9日（金）

【成果物】「企業の学校教育・青少年教育活動事例集」を作成。教育委員会、学校等に配布するとともに、公益社団法人日本フィランソロピー協会ウェブサイトに掲載。

2. 次世代育成事業

(1) 寄付推進事業（「寄付育」）

地域課題を題材にした課題解決学習を通して、子どもたちの「生きる力」を育てる教育機会を創出、普及する事業。平成30年度も、公益財団法人JKAの補助事業として実施。

各地域で推進してくれるキーパーソンに「推進委員」になって頂き、各学校での事業を進めていただくとともに、3地域でのセミナーと、東京での合同報告会を開催した。

◆推進委員

委員長 唐木 清志氏（筑波大学人間系 教授）

東京 高橋 良久氏 (江東区立深川第二中学校 校長)
 東北 (仙台) 中澤 宏一氏 (前宮城県仙台二華中学・高等学校 副校長)
 東北 (仙台) 柴田 隆一氏 (東北学院中学校 教諭)
 関西 (大阪) 神山 和英氏 (大阪府立長吉高等学校 教諭)
 関西 (大阪) 富田 年久氏 (大阪府立東住吉高等学校 教諭)
 関西 (大阪) 岡本 工介氏 (一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長)
 九州 (福岡) 入江 誠剛氏 (福岡教育大学 特任教授)

◆実践校

- ・東京都杉並区立杉並和泉学園・中学部
- ・東京都江東区立深川第二中学校
- ・東北学院中学校・高等学校
- ・大阪府高槻市立赤大路小学校
- ・福岡県福岡市立堅粕小学校

◆企業の授業づくりサポート

- ・三菱地所株式会社：まちづくりについての授業づくり
- ・プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社：PGF オープンアカデミー

◆セミナー・合同報告会 スケジュール

エリア	内容
東京	日時：平成 30 年 12 月 2 日 (日) 13:00～16:00 会場：TKP 東京駅セントラルカンファレンスセンター 10B テーマ：社会課題に挑戦する子どもたちを支える企業・学校の取り組み 講師：岡本 和久氏 (I・O ウェルス・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長) 高橋 良久氏 (東京都江東区立深川第二中学校 校長) 増永 康行氏 (NEC マネジメントパートナー株式会社 首都圏フロントサービス事業部 エキスパート) 家田 えり子氏 (株式会社資生堂 サステナビリティ戦略部 開発グループ マネージャー)
大阪	第 31 回フィランソロピーセミナー ～大阪編～ として開催
宮城	日時：平成 31 年 1 月 26 日 (土) 13:00～17:00 会場：石巻商工会議所 テーマ：災害を乗り越えて地域創生を支える次世代リーダーシップ ～企業・学校の現場から～ 講師：唐木 清志氏 (筑波大学人間系 教授) 岡本 工介氏 (一般社団法人タウンスペース WAKWAK 事務局長) 宮城県石巻西高等学校／石巻市立石巻中学校／東北学院中学校・高等学校 石巻市内企業・団体
東京	推進委員会と兼ね、平成 30 年度事業の振り返りと、来年度に向けた意見交換 日時：平成 31 年 3 月 10 日 (日) 13:00～15:30 会場：TKP ガーデンシティ PREMIUM 田町 参加者：推進委員会委員、学校関係者、企業担当者

(2) 「子どもの支援 伴走者」育成プログラム (独立行政法人福祉医療機構助成事業)

今年度は、過去 2 年間の研修を踏まえより広く展開するための、「子ども支援ファシリテーター育成プログラムの完成」を目指して実施した。また、昨年度のプログラムをもとに、子どもの貧困に対し、複数の地域、複数の接点 (食堂、居場所、遊び場など) で、企業人としての資源を活かし、継続的・積極的に、支援の現場にかかわる人材を育成することを目的とした。研修の検討に向けて 5 月から 9 月にかけて外部検討委員による 5 回の検討委員会を実施。研修は 10 月末から開始、5 回の研修は講義とワークショップで構成。5 回の研修以外に 2 回以上の現場体験を実施 (各地の子ども食堂やその他の支援団体での現場体験を準備)。最終報告兼成果物を作成。

◆外部検討委員

- 相川 良子 氏 (NPO 法人ピアサポートネットしぶや 理事長)
- 浦田 愛 氏 (文京区社会福祉協議会)
- 隅谷 理子 氏 (臨床心理士)
- 田中 康之 氏 (株式会社リンクアンドモチベーション 研修講師)
- 前野 隆司 氏 (慶應義塾大学院 システムデザイン・マネジメント研究科 教授)
- 松田 雄年 氏 (社会福祉法人東京家庭学校 校長)
- 横田 宗 氏 (NPO 法人アクション 代表)
- 幸重 忠孝 氏 (こどもソーシャルワークセンター 代表)

研修スケジュール

第1回 10月30日	子どもの『貧・困』の現状の理解1
第2回 11月16日	子どもの『貧・困』の現状の理解2
第3回 12月7日	現状の整理 (ワークショップ)
第4回 1月18日	企業で働く個人が支援に参加する意味の確認
第5回 2月5日	活動計画立案 (ワークショップ) と修了式
現場体験 (個別調整)	子ども食堂1か所と、それ以外 (学習支援、生活支援、居場所支援) 1か所の計2か所以上の現場体験を実施
シンポジウム 2月25日	子どもの『貧・困』への多様なかかわり方を知る -パネルディスカッション 1, 若き支援者の想い NPO ハーフタイム(葛飾区)事務局長 三枝 功侍氏 ポートファミリア(横浜市)統括責任者 柴崎 淳氏 他 2, 当事者の想い -特別講演 「誰もが幸せになるために～幸福学から考える～」 前野 隆司氏 (慶應義塾大学大学院 システムデザイン・マネジメント 研究科 教授) 出席者数 70名

研修実施結果

受講申込者数 31 に対し、研修を実施。7 割の受講生が講義 5 回中 3 回以上出席した。現場体験へは、7 割の受講生が 2 回以上参加し述べ参加者数は 50 名以上となった。

アンケート分析結果から、毎回、出席者の 8 割以上の受講生の理解度が高まったことが判明。また基礎的な内容であった第 1 回目は 7 割が、具体的な内容に踏み込んだ講義となった 2 回目以降は 9 割以上の受講生が、活動意欲が増した、と回答した。

一方、申込をしたものの 1 度も参加しなかったもしくは 1 回しか参加しなかった申込者数が 6 名 (約 2 割) であった。

(3) インターンシップ受入れ

これからの社会貢献活動を担う次世代の育成を目的として、平成 30 年度も、積極的にインターンシップ受け入れに取り組んだ。

(4) 企業の学校教育・青少年教育支援活動に関するアンケート調査

企業による次世代育成の取り組みを広げていくために、「学校教育・青少年教育活動に関する調査」を行い、現状と課題、事例を共有する。

実施期間：平成 30 年 9 月～11 月

配布方法：メールおよび郵送

配布先：日本フィランソロピー協会会員企業、教育支援活動を行っている企業

配布数：256 社

回答数：78 社（30.4%）＊うち会員企業 48 社

IV. 会員の推移

	平成 26 年度	平成 27 年度	平成 28 年度	平成 29 年度	平成 30 年度
正会員	34	33	29	27	26
賛助会員(法人)	79	81	88	93	101
法人 計	113	114	117	120	127
賛助会員(個人)	89	83	88	91	94

《正会員》

■入会（種別変更）1 社

- ・東京海上日動火災保険株式会社(賛助会員 注1)

■種別変更 2 社

(正会員より賛助会員へ種別変更)

- ・アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド
- ・三井物産株式会社

《賛助会員》

■入会 13 社

- ・株式会社ブリヂストン
- ・株式会社セブン&アイ・ホールディングス
- ・永島橋本安國法律事務所
- ・みらかホールディングス株式会社
- ・株式会社SUBARU
- ・ハーベスト株式会社
- ・ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社
- ・株式会社レオパレス 21
- ・シチズン時計株式会社
- ・ゼブラ株式会社
- ・株式会社インフォメーション・ディベロプメント
- ・株式会社三菱UFJ銀行
- ・株式会社アデランス

■退会 6 社

- ・さわやか信用金庫
- ・セガサミーホールディングス株式会社
- ・SMB C コンシューマーファイナンス株式会社
- ・株式会社ティー・マップ
- ・アイディール・リーダーズ株式会社
- ・株式会社リンクグローバルソリューション

■種別変更 3 社

(賛助会員より正会員へ種別変更)

- ・東京海上日動火災保険株式会社（正会員 注1）
- (正会員より賛助会員へ種別変更)
- ・アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレイテッド
- ・三井物産株式会社

以上

平成 30 年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第 34 条第 3 項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

令和元年(2019 年)5 月
公益社団法人日本フィランソロピー協会

2019 年度事業報告書

2019 年 4 月 1 日～2020 年 3 月 31 日

I. 社会貢献啓発事業(公益目的事業 1)

1. 機関誌の頒布事業

当協会の活動報告とともに、社会の課題を抽出し特集として企画・編集した。

2019 年度	特 集
No.391(4月号)	あなたの誕生日に寄付しませんか！
No.392(6月号)	人間はどこに向かうのか？～生物進化に学び、未来を創る～
No.393(8月号)	やってきたのは労働力ではなく人間だった
No.394(10月号)	「グレーインフラ」から「グリーンインフラ」へ
No.395(12月号)	塀の中でも外でも出番をつくる
No.396(2月号)	今、あらためてアダム・スミスに学ぶ

2. インターネットを利用した情報提供事業

当協会の活動をはじめ、企業の社会貢献・CSR 情報の提供、NPO・NGO 団体の活動最新情報を発信。

- (1) メールマガジン(毎月 1 日・15 日配信 配信数約 6,000 件)
- (2) 当協会 WEB サイト情報更新。
- (3) 理事長ブログ(2018.9.20～)第 18 回まで掲載。
- (4) (1)(2)を補完する情報発信源として、SNS (facebook)を利用。協会をより身近に感じてもらう事の出来るトピックを選び、職員全員で情報をアップ。 <https://www.facebook.com/philanthropy.or.jp>
- (5) 動画アプリ「1Roll」を導入し、2020 年 2 月～12 月までの間に 100 本の短時間動画(30～60 秒)を作成し、ホームページ、SNS (You Tube、Facebook、Twitter 等)での発信を行なう。8本配信済み。

II. 社会貢献促進事業(公益目的事業 2)

1. 研修事業

(1) 定例セミナー

年度の初めは新任の CSR 担当者も多いことから、今年度も4月より5回シリーズで基礎講座を開講。7月～10月はSDGsの本質、社員参画、障がい者雇用についての講座を開催した。

実施日	内容	参加者数
第 355 回 2019 年 4 月 17 日	CSR 基礎講座 I 『SDGs 時代の社会と企業～持続可能な社会づくりに求められる企業の視野と戦略～』 ＜講師＞川北 秀人 氏 (IIHOE [人と組織と地球のための国際研究所] 代表)	42 名
第 356 回 5 月 16 日	CSR 基礎講座 II 『ESG 投資の最新動向～投資家とともに目指す 2030 年の社会』 ＜講師＞水口 剛 氏 (高崎経済大学 経済学部 教授)	29 名
第 357 回 5 月 29 日	CSR 基礎講座 III 『社員ボランティアの立場から企業の CSR を考える』 ＜講師＞山崎 直子 氏 (UBS 銀行東京支店 ウェルスマネジメント本部 東京第一営業本部 部長 ディレクター)	38 名
第 358 回 6 月 11 日	CSR 基礎講座 IV 『CSR 担当者の役割と課題』 ＜講師＞木村 純子氏 (キャノン株式会社 CSR 推進部 部長)	44 名
第 359 回 6 月 24 日	CSR 基礎講座 V 『SDGs で自分を変える、未来が変わる』 ＜講師＞川廷 昌弘 氏 (株式会社博報堂 DY ホールディングス グループ広報・IR 室 CSR グループ 推進担当部長)	43 名
第 360 回 7 月 25 日	SDGs の本質 ～「誰一人取り残さない」社会の実現のために～ ＜講師＞黒田 かをり氏 (一般財団法人 CSO ネットワーク 事務局長・理事)	35 名
第 361 回 9 月 18 日	障がい者雇用への新しい道筋 ＜講師＞ ①金子 健二氏(株式会社マーキュリー) ②那部 智史氏(NPO 法人 AlonAlon 理事長)	35 名
第 362 回 10 月 8 日	「社内に SDGs を浸透させる」 ～社員参画を進めている企業の事例に学ぶ～ ＜講師＞ ①小谷 美樹氏(積水ハウス株式会社 CSR 部部長) ②喜納 厚介氏(パナソニック株式会社 CSR・社会文化部事業推進課課長)	55 名
第 363 回 11 月 12 日	【施設訪問】社会インフラとしての老人ホームに学ぶ高齢者問題 ＜講師＞ 岩城 隆就氏(株式会社さんわ、シルバーヴィラ向山代表取締役、社会福祉士)	12 名
第 364 回 12 月 5 日	「ESD(持続可能な開発のための教育)」に、社内浸透のヒントを学ぶ ＜講師＞ 阿部 治氏(立教大学総長補佐、同社会学部教授、ESD 研究所所長、元日本環境教育学会会長)	23 名

第 365 回 2020 年 1 月 16 日	「東京オリンピック・パラリンピックのレガシーを SDGs の視点から考える」 ＜講師＞ 星加 良司氏(東京大学大学院 教育学研究科附属 バリアフリー教育開発研究センター 准教授)	20 名
第 366 回 2 月 5 日	「企業による文化・芸術支援の意義と課題を考える」 ＜講師＞片山 正夫氏(公益財団法人セゾン文化財団理事長)	27 名

(2) フィランソロピーセミナー

実施日	内容	参加者数
第 34 回 2019 年 7 月 24 日	『社内に SDGs を浸透させるヒント』～社員参画を進めている企業の事例に学ぶ～ ＜講師＞積水ハウス株式会社 CSR 部 部長 小谷 美樹氏 パナソニック株式会社 CSR・社会文化部 事業推進課 課長 喜納 厚介 氏	29 名
第 35 回 11 月 11 日	SDGs で自分を変える、未来が変わる ～SDGs を自分ごととして考える～ ＜講師＞株式会社博報堂 DY ホールディングス グループ広報・IR 室 CSR グループ 推進担当部長 川廷 昌弘氏	36 名

(3) 経営者向けエグゼクティブセミナー

2019 年度も、昨年度に続き企業経営者向けセミナーを開講。今年度のテーマは「SDGs 時代の経営と人材育成を考える」。SDGs は、2030 年における持続可能社会の実現に向け、企業の役割として、社会に対して責任を果たすという守りだけではなく、持続可能な社会の実現を積極的にリードすることを求める。今後の企業経営に必須の社会的視点、人材育成の視点から 5 回シリーズで学んでゆく。

実施日	内容	参加者数
第 1 回 2019 年 10 月 25 日	「深化するCSR調達 国際的な潮流と課題」 ＜講師＞足立 直樹氏(株式会社レスポンスアビリティ 代表取締役)	6 社 9 名
第 2 回 11 月 14 日	「自立した従業員と共に創る CSR 経営」 ＜講師＞山崎 直子氏(UBS 銀行 東京第一営業本部 部長)	6 社 9 名
第 3 回 12 月 11 日	「経営者視点からの CSR/SDGs への取り組み～企業価値向上のための実践～」 ＜講師＞大久保 和孝氏(株式会社大久保アソシエイツ 代表取締役社長、公認会計士・公認不正検査士)	6 社 8 名
第 4 回 2020 年 1 月 23 日	「SDGs 達成にむけて金融の果たす役割とは ～ESG 投資の深化から～」 ＜講師＞河口 真理子氏(株式会社大和総研 調査本部研究主幹)	5 社 8 名
第 5 回 2 月 20 日	「SDGs時代の企業経営におけるダイバーシティと人権」 ＜講師＞村木 厚子氏(津田塾大学客員教授)	8 社 10 名

(4)「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」

～NPOリーダーのためのリーダーシップ育成プログラム～

① American Express Leadership Academy Global Alumni Summit 2019

「アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー」のスポンサーである

アメリカン・エクスプレス財団より招待を受けて、研修生とパートナー団体を対象にしたグローバル・サミットに藤川 祥子が出席した。

日時:2019年3月31日(日)から4月2日(火)

会場:(米国ワシントンDC)

② アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2019 第11期 東京

日時:2019年5月30日(木)から6月1日(土)2泊3日

会場:ホテルフクラシア晴海(東京都中央区)

総合監修:米倉 誠一郎氏(法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授)

講師:印南 裕二氏(アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. 加盟店事業部門
副社長 兼 ゼネラル・マネージャー)

金子 健二氏(特定非営利活動法人 Check 代表理事)

田中 康之氏(株式会社 BRICOLEUR パートナー)

前野 隆司氏(慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授)

宮地 勘司氏(株式会社教育と探求社 代表取締役社長)

研修参加者:全国のNPOリーダー29名(公募および推薦)

プログラム:

<基礎講座(理念・哲学)>

・「NPOのリーダーシップにおけるイノベーション」(米倉 誠一郎氏)

・「イノベーションとリーダーシップ育成」(米倉 誠一郎氏)

<実務講座(業務遂行能力)>

・「幸せな社会の実現のために」(前野 隆司氏)

・「モチベーション・マネジメントと異文化理解」(田中 康之氏)

・「ユニバーサルイレ・チェック(フィールドワーク)」(金子 健二氏)

・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」(印南 裕二氏)

<グループワーク>

・「私の履歴書」執筆を含む「自己探求の旅」(宮地 勘司氏)

・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備

・課題プレゼンテーション

③ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2019 第11期 福岡

日時:2019年8月1日(木)から8月3日(土)2泊3日

会場:TKP ガーデンシティ PREMIUM 博多駅前(福岡市博多区)

総合監修:米倉 誠一郎氏(法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授)

講師:須藤 靖洋氏(アメリカン・エクスプレス・インターナショナル, Inc. 法人事業部門
副社長 兼 ゼネラル・マネージャー)

金子 健二氏(特定非営利活動法人 Check 代表理事)

小柳 佑衣子氏(株式会社教育と探求社 創発部サブマネージャー)

田中 康之氏(株式会社 BRICOLEUR パートナー)

前野 隆司氏(慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授)

研修参加者:全国のNPOリーダー29名(公募および推薦)

プログラム:

<基礎講座(理念・哲学)>

- ・「NPOのリーダーシップにおけるイノベーション」(米倉 誠一郎氏)
- ・「イノベーションとリーダーシップ育成」(米倉 誠一郎氏)

<実務講座(業務遂行能力)>

- ・「イノベティブ・リーダーシップのための幸福学」(前野 隆司氏)
- ・「モチベーション・マネジメントと異文化理解」(田中 康之氏)
- ・「ユニバーサルイレ・チェック(フィールドワーク)」(金子 健二氏)
- ・「アメリカン・エクスプレスのリーダーシップ論」(須藤 靖洋氏)

<グループワーク>

- ・「私の履歴書」執筆を含む「自己探求の旅」(小柳 佑衣子氏)
- ・課題に対する企画の作成およびプレゼンテーション準備
- ・課題プレゼンテーション

④ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2019

第11期 東京『フォローアップ・セッション』

日時:2019年12月10日(木) 13:00~18:30

会場:フクラシアオアゾ丸の内(東京都千代田区)

参加者:5月の合宿研修に参加した研修生19名

⑤ アメリカン・エクスプレス・リーダーシップ・アカデミー2019

第11期 福岡『フォローアップ・セッション』

日時:2020年3月3日(火) 13:00~17:45

参加者:8月の合宿研修に参加した研修生15名

新型コロナウイルス感染拡大防止策としてビデオ会議にて実施

2. 顕彰事業

(1) 第17回企業フィランソロピー大賞

<スケジュール>

2019年	5月27日	公募開始
	10月2日	第1次選考委員会
	10月中旬~11月下旬	各社ヒアリング 13社
	12月6日	選考委員会・贈呈先企業決定
	12月25日	贈呈先企業の発表
2020年	2月21日	贈呈式(学士会館)

<選考委員>

委員長 國部 克彦氏(神戸大学 副学長/経営学研究科教授)

委員 井出 明子氏(日本電信電話株式会社 常勤監査役)
佐藤 雄二郎氏(株式会社共同通信社 代表取締役社長)
渋谷 健氏(コモンズ投信株式会社 取締役会長)

<応募状況>

公募25件 事務局推薦14件 計39件

<選考対象企業>

13社

<受賞企業>

★企業フィランソロピー大賞

第一勧業信用組合 (東京都新宿区)

北良(ほくりょう)株式会社 (岩手県北上市)

★企業フィランソロピー賞

【里山イノベーション賞】	石坂産業株式会社	(埼玉県三芳町)
【つなぐ灯(ともしび)賞】	大阪ガス株式会社	(大阪市)
【笑顔を届けま賞】	株式会社クラレ	(東京都千代田区)
【未来への道しるべ賞】	阪急阪神ホールディングス株式会社	(大阪市)
【地域モビリティ賞】	株式会社 光(ひかり)タクシー	(北九州市)

3. フィランソロピー・バンク事業 (個人寄付普及事業)

(1) NPO 向け

社名	内容
株式会社かんぽ生命保険	保険商品でウェブ約款を選択した顧客数に応じ寄付金を拠出するプログラムで環境分野の NPO 34 団体に寄付金を配布。
株式会社ジェーシービー	被災地支援の取組みとして実施予定。2019 年度(第 9 回)は、東日本大震災支援を中心に 29 団体を選定。当協会を通じて各団体へつなぐ寄付金の総額は約 6,600 万円。
Fidelity Asia Pacific Foundation	NPO の基盤整備を目的としたプログラムで 1 団体に寄付金を配布。
株式会社三井住友銀行	社員による寄付プログラムで、コミュニティ・次世代・環境の分野で活動する 15 団体、および社員がボランティアをしている 5 団体に寄付金を配布。
株式会社ファンケル	顧客のポイントを金額換算したものと、社員からの寄付を合算し、みちのく未来基金と全国 10ヶ所の重度心身障がい者施設に寄付。2018 年度(2019 年度実施) 寄付金総額は約 270 万円。
明治安田生命保険相互会社	チャリティー・コンサートの会場で集めた募金を、東北 3 県で「次世代育成」の分野で活動する 6 団体に寄付予定。寄付金総額は 1,328,923 円。 社会貢献活動基金を通じて、児童支援、被災者支援、障がい者・高齢者支援、LGBT 支援、環境保全活動などを行なう 10 団体に寄付予定。選考中。
東京海上日動あんしん生命保険株式会社	社員の給与天引き、代理店でのグッズ販売の一部を難病患児支援団体、認知症啓発団体に寄付。寄付先は前年度より継続。3 団体、寄付金総額は 1,901,000 円。
TOYO TIRE 株式会社	環境基金公募 2 年目。環境問題に携わる団体を公募の上、選考し助成する。1 団体上限 150 万円。助成総額 15,386,000 円(前年より約 300 万円減) 申請団体数:35 団体(前年より 5 団体増) 助成団体数:14 団体(前年より 5 団体減)
ブリティッシュ・アメリカン・タバコ・ジャパン合同会社	北海道胆振東部地震の支援のため社員募金 916,000 円を北海道厚真町で活動する団体に寄付。
株式会社 LIFULL	だれ一人取り残すことなく一人ひとりの“したい暮らし”を応援するための寄付プログラムをスタート。寄付対象は、ドメスティックバイオレンスを受けている人々、虐待を受けている人々、難民、貧困により住生活に困っている人々を支援する団体に対して寄付。9 団体、寄付総額:20,082,228 円。
アメリカン・エクスプレス・インターナショナル・インコーポレーテッド	2016 年熊本地震の復興支援。百貨店オリジナルギフトカードのチャージ金額1%を、公益財団法人熊本 YMCA の「震災復興支援募金」に寄付。2019 年の寄付金額は 122,520 円。
株式会社ゆうちょ銀行	環境分野で住民と共に課題解決に向けた活動をする 13 団体を選定。
株式会社電通アドギア	火災で焼失した首里城の再建支援として従業員募金と会社からの拠出により寄付。

デロイトトーマツコーポレートソリューション合同会社	東日本大震災復興支援の一環として、南三陸町図書館に図書カード寄贈
個人1名	子どもの教育活動を行なう団体への寄付 930,000 円

(2) 個人向け

① 東京海上日動あんしん生命 奨学金制度

- 応募資格等
 - ◆ 疾病により保護者を失った遺児で、経済的理由により支援を必要とし、高等学校等から大学等への進学希望がある方
 - ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方
- 募集期間:2019年6月3日(月)～2019年10月31日(木)
- 募集人数:60名
- 申請人数:58名(前年より60名減)
- 内定人数:58名
- 給付額:年間 30 万円

② 東京海上日動あんしん生命 幼児教育支援制度

- 応募資格等
 - ◆ 疾病により保護者を失い、経済的理由により支援を必要とする未就学の遺児かつ2014年4月2日～2017年4月1日生まれのお子さまを養育する方
 - ◆ 応募時における前年度の年間世帯収入金額が、指定の条件を超えない方
- 募集期間:2019年6月3日(月)～2019年10月31日(木)
- 募集人数:30名
- 申請人数:10名(前年より3件増)
- 決定人数:10名
- 支援内容:
 - ◆ 株式会社ベネッセコーポレーションの「こどもちゃれんじ」を、年少～年長期間に1年間～最大3年間、無償で提供
 - ◆ 教材提供期間中、進級の際「進級お祝い金」として3万円を給付。
 - ◆ 進学前のランドセル寄贈
 - ◆ 進学お祝い金3万円贈呈

③「誕生日寄付事業」

誕生日という命を授かった日に感謝し、子どもたちの命を守り育てる活動を寄付で応援する取り組み。寄付のプラットフォーム(専用ウェブサイト)を活用し、個人の寄付の実践を促進する。集まった寄付金は、審査委員会を通じて選ばれた団体へ寄贈する。

➢ 実績(2020年3月末現在)

- ◆ 寄付金額 4,334,238 円
- ◆ 寄付者数 157 名

0～9歳	10代	20代	30代	40代
10名	1名	2名	6名	19名
50代	60代	70代	80代	90代
33名	36名	12名	2名	1名

※不明 35 名

※内 3 件 企業の設立記念日の寄付あり。

- ◆ 誕生日登録者数 244名

1月	2月	3月	4月	5月	6月
26名	26名	26名	15名	15名	13名
7月	8月	9月	10月	11月	12月
15名	25名	27名	19名	18名	19名

➤ 発足記念チャリティーパーティー

本事業の拡大策として開催

- ◆ 日時:2019年7月6日(土)18時～21時
- ◆ 会場:東海大学校友会館 阿蘇の間
- ◆ 参加人数:89名
- ◆ 内容:
 - ・寄付先団体からの活動紹介
 - ・シンガーソングライター 加藤 登紀子さんミニコンサート
 - ・チャリティーオークション
- ◆ チャリティーオークション売上:531,500円
オークションの売上は全額団体へ寄付(2020年4月末)。

➤ 寄付・寄贈いただいた法人

【法人】

アートコレクションハウス株式会社
味の素グループ 味の素 AGF 株式会社
王子ネピア株式会社
株式会社共同通信社
株式会社京王プラザホテル
サントリーホールディングス株式会社
シチズン時計株式会社
東急電鉄株式会社
ドーマル・ジャポン株式会社
永島橋本安國法律事務所
公益財団法人日本棋院
公益社団法人日本将棋連盟
株式会社ニュー・オータニ
株式会社ファンケル
合同会社ユー・エス・ジェイ (50音順)

賛同人

瀬戸内 寂聴 小説家・天台宗尼僧
川淵 三郎 公益財団法人日本サッカー協会 相談役
前野 隆司 慶應義塾大学 大学院システムデザイン・マネジメント研究科 教授
米倉 誠一郎 法政大学大学院 イノベーション・マネジメント研究科 教授
渋澤 健 コモンズ投信株式会社 取締役会長
加藤 登紀子 シンガーソングライター
日比野 克彦 東京藝術大学美術学部長
竹川 隆司 東北風土マラソン創始者 実行委員会副実行委員長
岡本 和久 I-O ウェルズ・アドバイザーズ株式会社 代表取締役社長
伊藤 宏一 千葉商科大学 人間社会学部 教授
小宮山 宏 三菱総合研究所 理事長
古賀 良彦 杏林大学 名誉教授
板東 久美子 日本司法支援センター理事長
加賀美 由加里 ドーマル・ジャポン株式会社 会長

土谷 貞雄 株式会社貞雄 代表
 盛田 淳夫 敷島製パン株式会社 代表取締役 社長
 宗次 徳二 株式会社壺番屋 創業者特別顧問
 残間 里江子 プロデューサー
 中村 陽一 立教大学大学院 21 世紀社会デザイン研究科 教授
 澤上 篤人 株式会社さわかみホールディングス 代表取締役

(2020 年 3 月末日現在/敬称略 順不同)

4. フィランソロピー社会基盤整備事業

(1) 個別企業社会貢献推進事業

A. 従業員ボランティア支援事業

①「ボランティアウェブ」利用企業

社名	内容
株式会社 NTTドコモ	2016 年 4 月より通年利用。2020 年 3 月にて終了。
日本ロレアル株式会社	2019 年 5 月末～6 月のプログラムのみの期間限定利用。全世界でのボランティア強化月間のプログラムの受入先調整及び申込受付業務を受託。首都圏 630 名分、大阪 34 名分、名古屋 6 名分を提供。506 名が申込み、468 名が実際に参加。
株式会社ジェーシービー	2011 年より、「JCB 社会貢献プログラム」のボランティア受付管理を「ボランティアウェブ」により継続利用中。4～3 月までの申込者は 1325 名。新型コロナウイルスの感染拡大の影響を受けて、2 月 18 日以降、持ち帰りプログラム以外のプログラムに従業員が申し込めないように依頼があり、対応している。
サントリーホールディングス株式会社	2017 年 3 月より、社内の「働き方改革」の一環で、「ボランティアウェブ」を利用中。今期よりボランティアウェブとつなげた社内ボランティアサイトを立ち上げ、年 2 回のボランティア推進月間を設けている。
日本たばこ産業株式会社	2019 年 3 月より、通年利用。
株式会社電通	2019 年 4 月より、通年利用。2020 年 3 月にて終了。
株式会社三菱 UFJ 銀行	2019 年 4 月より、通年利用開始。社内、社外含め様々な分野で多様な部門より活発に参加。4 月から 2020 年 3 月末までで、188 名の申し込みがあり、実際には 151 名が参加した。
株式会社 LIFULL	2019 年 7 月より、通年利用。

② 個別コーディネート企業

社名	内容
アクセント株式会社	新入社員研修プログラムや 2019 年度チャリティー・チャレンジプログラムへの協賛・社員ボランティア参加に向け企画内容の協議を開始した。2018 年 9 月から 2019 年 8 月のプログラム参加人数はのべ 978 名。
クーパービジョン・ジャパン株式会社	新規会員検討を前提として、5 月 24 日(金)に、役員・部長クラス 8 名に対して「絵本のシール貼り」プログラム(シヤンティ)を実施。9 月 3 日(火)には本社から全国の拠点をつなぎ、83 名が同プログラムに参加した。
株式会社三菱 UFJ 銀行	社内プログラムを実施。 ・キワニスドールづくり 8 月 20 日(火)49 名参加 ・セカンドハーベスト名古屋 9 月 6 日(金)18 名参加
アステラス製薬株式会社	全国の事業所から依頼を受け、地元でボランティア活動を企画する際のパートナーを調査・推薦する事業を実施。7 月～

	10月までに、のべ12事業所から問合せがあり、のべ34団体を推薦、その内3事業所でボランティア活動が実施された。
大日本印刷株式会社	従業員の被災地ボランティアプログラムの企画および実施を支援。今年度は、7月に37名にて宮城県石巻市(東日本大震災)、9月に23名にて広島県広島市・呉市(西日本豪雨)、10月に22名で熊本県阿蘇郡南阿蘇村、上益城郡益城町(熊本地震)にて、12月に18名で岩手県陸前高田市(東日本大震災)にて実施。

B. 助成支援事業

プログラム名・社名	内容
田辺三菱製薬手のひらパートナープログラム」田辺三菱製薬株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・2018年度活動報告会 2019年10月3日(大阪)、10月7日(東京) ・2019年年度公募 2019年10月1日より受付開始。締切11月15日。 ・応募数:31件 ・採択数:15件(総額1,000万円)
「JT NPO 助成事業」 「JT SDGs 貢献プロジェクト」 日本たばこ産業株式会社	<ul style="list-style-type: none"> ・JT NPO 助成事業の継続応募15件の書類審査を行なう。 ・JT SDGs 貢献プロジェクトが2020年1月15日より開始。 <p>格差是正／災害支援／環境保全の3分野で活動をする団体に助成をするプロジェクトの外部事務局として、立ち上げ準備及び運営支援を行なう。</p>

C. 社会貢献活動支援事業

プログラム名・社名	内容
「国産小麦ゆめちからの栽培研究プログラム」 敷島製パン株式会社	2019年6月16日(日)利根工場(千葉県野田市)にて「工場見学&食料気球自給率を考えるワークショップ」を開催。中高生30名が参加。
「森と紙のなかよし学校」 日本製紙株式会社	日本製紙が所有する菅沼社有林(群馬県利根郡)で小学生親子を対象に行なう環境教育プログラム。第24回を2019年9月7日(土)-8日(日)に実施。11家族30名が参加。
「ボランティア演芸会」 王子ネピア株式会社	業務用大人オムツ等の売上一部の支援により、全国の介護施設で、全日本おむつ団と称する東西10名の落語家による演芸会を56回開催(新型コロナウイルス感染拡大により、3月開催予定の4回が中止となった)。
「森里海つなぐプロジェクト」 東京ガス株式会社	<p>2017年度から開始した、森、里山、海、をつなぐ環境社会貢献活動の全体の支援。有識者を含む運営委員会で進捗確認・意思決定をしながら遂行。</p> <p>6月2日:海の活動として神奈川県海の公園にて「アマモ再生イベント」実施。(東京ガスの職員とその家族47名を含み総勢167名が参加。)</p> <p>11月16日:6月の活動にて採取したアマモの種を育て播く海の活動を実施(東京ガスの職員とその家族40名参加)。</p> <p>8月25日~27日:中学生を対象に、東京都の都心部と里山とをつなぐ活動を実施(中学生9名、高校生・大学生サポーター11名参加)。11月24日報告会開催(120名参加)。</p> <p>2020年2月29日:里の活動として、東京都清瀬市の保全林にて里山保全活動を実施予定していたが新型コロナウイルス感染拡大により中止。</p>

「新入社員研修」 東京海上日動火災保険株式会社	2019年度新入社員 579 名の新入社員研修について全国 13 地域での研修プログラムを作成。新規会場：北海道厚真町、岡山県真備町、山口県山口市 2019年4月22日～25日に実施。
「SAVE SOAPプロジェクト」 アンファー株式会社	「認定特定非営利活動法人 シェア＝国際保健協力市民の会」と協働。衛生教育の一環として石鹼配布、さらに補助として、洗うと絵が浮き上がる絵本も活用し 2018年5月からカンボジア北部のプレアビヒアにて継続して展開している。
フィリップ モリス ジャパン 合同会社	災害復興支援ボランティアの受付業務支援。宮城県名取市、石巻市、岩手県釜石市、愛媛県宇和島市の4会場の受付業務実施。
プルデンシャル ジブラルタ ファイナンシャル生命保険株式会社	「PGF 生命オープンアカデミー」の運営支援 都内2校での授業実施支援と、2020年度に向けたプログラム企画のための調査を実施。 <授業実施> ・日出学園中学校・高等学校 中学3年生 96名 ・武蔵野大学附属千代田高等学院 高校1年生 71名 <調査実施> ・株式会社みずほフィナンシャルグループ ・株式会社三菱 UFJ フィナンシャル・グループ
大和ハウス工業株式会社	「エンドレス募金」公募団体の財務状況チェック。 2019年度は15団体を評価。

D.物品寄贈「あげます・もらいます」事業

寄贈時期	企業	寄贈物品	寄贈先 団体数
2019年5月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	毛糸	1団体
2019年7月	楽天株式会社	タオル、 タンブラー、 マグカップ、 アクセサリー	6団体
2019年7月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	ハサミ	1団体
2019年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	メモ帳	6団体
2019年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	エプロン	2団体
2019年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン グループ ヤンセンファーマ株式会社	ファイル類	2団体
2019年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン株式会社	デスクライト	2団体
2019年8月	ジョンソン・エンド・ジョンソン グループ アクテリオン ファーマシューティカルズ ジャパン株式会社	文具類	5団体
2019年9月	株式会社 J-オイルミルズ	自社商品	1団体
2019年9月	株式会社インフォメーション・ディベロップメント	お米・絵本	1団体

2019年12月	楽天株式会社	楽天オリジナルグッズ	3団体
2020年3月	株式会社J-オイルミルズ	文房具	9団体
2020年3月	アステラス製薬株式会社	タオル	1団体

(2)被災地復興支援事業

A.サントリー・チャレンジド・アスリート

① 第6期「チャレンジド・アスリート奨励金」

7月より公募開始。個人、団体に総額約3,600万円給付(個人約1,500万円、団体約2,100万円)。今期よりアスリートのみならず指導者に転身した方も含め審査した。今回で最後となる。2020年1月30日(木)に岩手県、宮城県、福島県にて記者発表実施した。

申請数

	個人	団体
岩手県	12(6減)	9(1減)
宮城県	32(1増)	14(3減)
福島県	13(5減)	7(1減)

給付数

	個人	団体
岩手県	9(2減)	6
宮城県	24(2増)	9(1減)
福島県	13(4減)	6(2減)

6期まで個人部門のべ294名、団体部門のべ129団体、計約2億600万円を給付した。

<審査員> 3名

福留 史朗氏(パラリンピアン:陸上、一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事)

増子 恵美氏(パラリンピアン:車椅子バスケットボール、
一般社団法人日本パラリンピアンズ協会 理事)

高橋 陽子(公益社団法人日本フィランソロピー協会 理事長)

② 「チャレンジド・スポーツアカデミー」～アスリートビジット～

チャレンジド・スポーツに対する子どもたちの理解を深めるため、チャレンジド・アスリートなどが3県の学校を訪問し、講演や車椅子バスケットボール体験会などを実施。

・アスリートビジット

開催日	実施会場	生徒数
2019年 5月16日	宮城県東松島市立矢本第一中学校	177名
6月25日	福島県富岡町立富岡第一小学校	16名
7月11日	岩手県岩泉町立岩泉中学校	90名
9月13日	宮城県松島町立松島第五小学校	20名
10月11日	福島県立ふたば未来学園	80名
10月30日	岩手県普代村立普代小学校	23名
2020年 2月3日	福島県三春町立中妻小学校	54名

・チャレンジド・スポーツ体験教室

学校ではなく公募によりチャレンジド・スポーツの体験会を実施。本年は岩手県にて開催。

開催日	実施会場	参加者数	実施競技
2019年 8月4日	夢アリーナたかた (岩手県陸前高田市)	110名	陸上(レーサー)、ボッチャ、 車椅子バスケットボール、 卓球バレー、ウィルチェアラグビー、 アンプティサッカー *卓球バレー大会も同時開催。

③「チャレンジド・スポーツ育成サポート」

チャレンジド・スポーツ育成のため、基盤強化・環境整備などを支援。本年より各県にて車椅子導入教室を実施し、障害者スポーツのすその拡大に向けた講座を実施する。

車椅子導入教室

開催日	実施会場	参加者数	講師
2019年 4月20/21日	盛岡市立乙部体育館 ふれあいランド岩手	12名 30名	橋本大佑氏 (ドイツ障害者スポーツ連盟公認 リハビリテーションスポーツ 指導者)
7月21日	宮城県多賀城市総合体育館	21名	橋本大佑氏 (ドイツ障害者スポーツ連盟公認 リハビリテーションスポーツ 指導者)

C. チャリティーチャレンジ・プログラム 2019

2018年まで中高生を中心に、被災地支援事業の一環として取り組んできたチャリティー・リレーマラソンを、今年度は、ワークショップ型プログラムに変更し実施した。

特別協賛: EY新日本有限責任監査法人

協賛: アクセンチュア株式会社、株式会社 ジェーシービー、株式会社ブリヂストン

助成: 公益財団法人 JKA

<プログラム>

➤ 被災地スタディツアー

東日本大震災発災後、復興のために誰が何をどのようにし、どういうことが起きているのかを学び、時系列で誰が取り残されているのか、なぜ取り残されたのかを考える。将来的な時間軸でも考える。考えた課題を東京ワークショップのディスカッションテーマとした。

- ◆ 期間: 2019年5月11日～12日
- ◆ 場所: 石巻市、女川町
- ◆ 参加者: 56名(東京都、千葉県、宮城県、福島県の中高生、大学生ボランティア、企業ボランティア)
- ◆ 協力: 女川町長 須田善明氏、石巻日日こども新聞 太田倫子氏

➤ 東京ワークショップ

5月に気づいた課題について、中高生ができることを考え、活動すると同時にユニバーサル運動会などで新たな気づきを得、最終日に自分たちは何をすべきか、また、自分は何をするか、を発表した。

- ◆ 期間: 2019年7月13日～15日
- ◆ 場所: 東京都内

- ◆ 参加者:100名(東京都、千葉県、宮城県、福島県、熊本県からの中高生、大学生ボランティア、企業ボランティア)
- ◆ 協力:EY 新日本有限責任監査法人、株式会社ブリヂストン、アクセンチュア株式会社、東京大学、石巻日日こども新聞 太田倫子氏

➤ **西日本豪雨被災地視察ツアー**

2018年の西日本豪雨被災地であり、かつ原爆の記憶を伝える活動を70年続けている広島にて、災害の記憶を伝えることについて考える。

- ◆ 期間:2019年11月16日～17日
- ◆ 場所:広島市安芸郡坂町、広島市(平和記念公園)
- ◆ 参加者:32名(東京都、宮城県、福島県、熊本県からの中高生、大学生ボランティア)
協力:ひろしまNPOセンター

(3) **コンサルティング事業**

郡山市農福連携推進モデル構築事業

福島県郡山市(農林部 園芸畜産振興課)からの受託事業

- ◆ 目的:農業と福祉の両分野が連携することにより、農業分野における労働力の確保、生産力の維持、福祉分野における障がい者等の活躍の場の拡大及び自立支援を図る
- ◆ 履行期間:2019年8月～2021年3月末(3年間)
- ◆ 受託金額:8,800,000円(2019年度)
- ◆ 活動状況:
 - 初年度テーマ:農福連携の実現に向けた課題抽出と参加農家・福祉団体など拡充
 - ★就労弱者(障がい者、引きこもり)の施設外就農体験の実施(課題抽出のためのテストケース)
 - ・協力団体の抽出と調整
 - ・テスト就農の実施
 - 8農家、9福祉団体を抽出。3農家、4団体で26名の就労弱者(障がい者、ニート・引きこもり)がテスト就農実施。
 - ★「ノウフクフォーラムふくしま」開催(市民、関係団体向け)
 - ・関係団体への周知と事業参加者の確保(農業、福祉双方)
 - 約150名(農業関係 約20名、福祉関係 約60名、行政・その他 約40名、講師・スタッフ 約30名)
 - ★ジョブコーチ育成プログラム作成
 - ・国(農水省)との連携を模索
 - ・先進地視察研修の実施(3事例)
 - 埼玉福興(株)(埼玉県熊谷市)(9月)、京丸園(株)(静岡県浜松市)(12月)
 - なないろ畑(神奈川県大和市)(2月)

Ⅲ. 共生社会創造事業(公益目的事業 3)

1. 共生社会づくり推進事業

(1) フィランソロピー名刺事業

フィランソロピー普及と障がい者の経済的自立のための名刺制作事業。

1 件:100 枚

	2015 年度	2016 年度	2017 年度	2018 年度	2019 年度
制作件数	333	356	348	308	376

(2)「企業の学校教育・青少年教育支援活動に関する調査」報告書

次世代教育のための学校・企業連携を促進することを目的に実施したアンケート調査の報告書を発行(B5 版 92 ページ 製作協力費 1,000 円)

2. 次世代育成事業

(1) 寄付推進事業(「寄付育」)

地域課題を題材にした課題解決学習を通して、子どもたちの「生きる力」を育てる教育機会を創出、普及する事業。日本フィランソロピー協会は、事業設計の相談、寄付先候補団体の推薦、校外での依頼状配布・募金活動のサポートを実施した。

- ・実施校・対象学年・人数:東京都杉並区立杉並和泉学園 9 年生(中学 3 年生)55 名
- ・期間:2019 年 6 月～9 月 14 時間+贈呈式
- ・概要:今年度は、杉並区ボランティアセンターのスタッフより、杉並区での社会課題に対する活動についての講話をしてもらいほか、日本フィランソロピー協会より推薦した 3 団体のプレゼンテーションと生徒によるディスカッションを経て、生徒たちが杉並区内で子ども食堂を運営する団体への寄付を決定した。商店街で実施した募金活動により、273,545 円の寄付金が集まり高円寺こども食堂、ころころ食堂への寄付が行なわれた。

(2) 学校運営支援

中学校が主に 2 年生を対象とする「職場体験学習」を受け入れる団体として、会員企業を紹介した。

- ・実施校・対象学年・人数:東京都江東区立深川第二中学校 2 年生 2 名
- ・実施企業:NEC ソリューションイノベータ株式会社
- ・期間:2019 年 8 月 27 日(火)～29 日(木)
- ・概要:ICT 企業の仕組みだけでなく、「障がい者」をテーマとし、聴覚障がい者である担当者を中心に、生徒たちは障がい者について、また地域の障がい者福祉団体・施設が同社を訪れて実施する月 1 回のマルシェの手伝いを通して、企業と障がい者との関係について学んだ。

(3) 次世代育成事業

2018 年まで中高生を中心に、被災地支援事業(公2)の一環として取り組んできたチャリティー・リレーマラソンを、今年度は、次世代育成の視点(公3)を盛り込み、ワークショップ型プログラムに変更し実施した。プログラムを、「中高生たちが被災地の現状を学び、未来に向かって誰も取り残さないために何をすべきかを考える」をテーマに再構成し、公益財団法人 JKA の助成金を有効に活用した。

(4) インターンシップ受入れ

これからの社会貢献活動を担う次世代の育成を目的として、2019年度も、積極的にインターンシップ受け入れに取り組んだ。8月参加校、専修大学(1名)武蔵野大学(2名)、文京学院大学(1名)

IV. 会員の推移

	2015年度	2016年度	2017年度	2018年度	2019年度
正会員	33	29	27	26	25
賛助会員(法人)	81	88	93	101	102
法人計	114	117	120	127	127
賛助会員(個人)	83	88	91	94	84

《正会員》

■退会 1社

- ・リーフラス株式会社

《賛助会員》

■入会 8社

- ・東急株式会社
- ・ジブラルタ生命保険株式会社
- ・株式会社LIFULL
- ・株式会社共同通信社
- ・クーパービジョン・ジャパン株式会社
- ・株式会社電通アドギア
- ・明治ホールディングス株式会社
- ・有限会社椎名洋ラン園

■退会 7社

- ・株式会社NTTデータ
- ・株式会社ゆうちょ銀行
- ・富士ゼロックス株式会社
- ・ロート製薬株式会社
- ・株式会社レオパレス21
- ・MSD株式会社
- ・ファイザー株式会社

2019年度事業報告には、「一般社団法人及び一般財団法人に関する法律施行規則」第34条第3項に規定する附属明細書「事業報告の内容を補足する重要な事項」が存在しないので作成しない。

2020年5月
公益社団法人日本フィランソロピー協会